

令和元・2・3年度 福岡県重点課題研究指定・委嘱地域

課題：幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐカリキュラム・マネジメント

研究要録

伸びようと動く 子どもを育む

道徳教育を中心にした
12年間の教育カリキュラム

令和3年10月29日(金)

研究発表会

久山町立

けやきの森幼稚園 ひさやま保育園杜の郷 久原小学校 山田小学校 久山中学校

伸びようと動く子どもを育む

－ 道徳教育を中心にした12年間の教育カリキュラム －

1 背景

(1) 福岡県の教育の課題

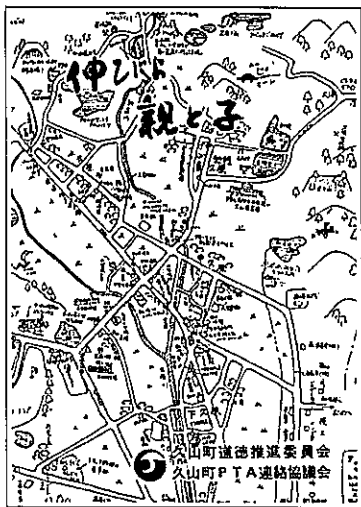
久山町は、福岡県教育委員会から県の教育課題を解決すべく、令和元年度から3年間の研究指定を受けました。福岡県の教育課題は以下の2点です。

- ① 幼・保・小・中で、目指す子ども像が一貫していないこと
- ② 子どもが自ら学び、自ら考える力を育む具体的な取組に継続性がないこと

そこで久山町では、教職員で幼・保・小・中で目指す子ども像を一貫させ、子どもが自ら学び考える力をつけるための研究を進めます。そのために、12年間の連続した教育カリキュラムをつくり、実践研究を行います。

(2) 町の道徳教育を継承する

「伸びよう」と主題名にある語句は、右の冊子のタイトルからとったものです。「伸びよ親子」という道徳教育啓発雑誌で、毎年小学校の入学式



で家庭に配布しています。

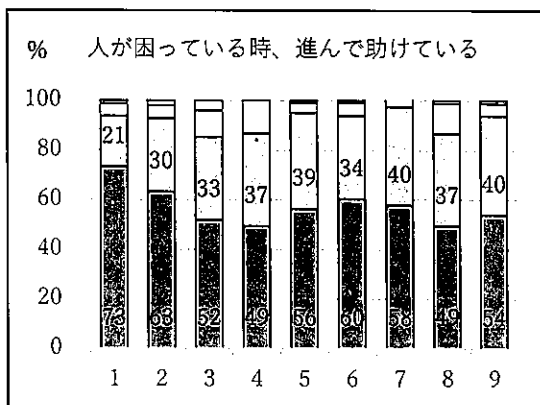
この中で初代の久山町道徳推進委員長である河邊謙太郎さんは、「子どもたちに道徳の内容をわからせるのは学校の仕事であるが、その実践の指導には家庭や地域の責任が大きい」と言っています。園・学校や家庭、地域と一体となって道徳性を育むことが重要であることは、昔も今も変わりません。

今後も久山町の園や学校では、町の道徳教育の流れを継承するとともに、改めて幼・保・小・中の教職員が一体となって、一貫した教育カリキュラムづくりを行い、12年間で道徳心あふれる子どもを育てていきます。

(3) 久山町の子どもの現状

① 思いやりの心が育っている久山の子

令和元年7月に全児童生徒に対して、全国学習状況調査と同じ項目15項目を4件法で行いました。以下は、そのうちの結果の一部です。



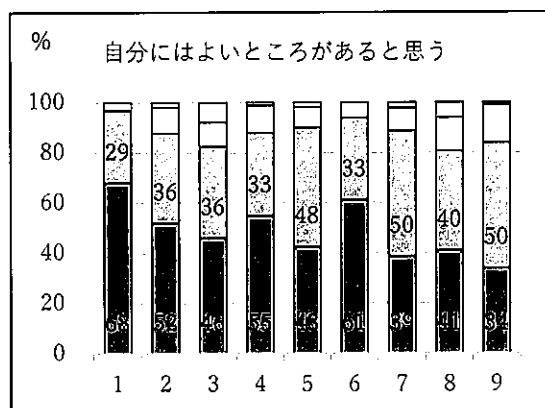
【資料1】 他者への手助けに関するアンケート

※上記グラフ横軸の数字は学年。7～9は中学校。

- …当てはまる
- …当てはまる
- …あまり
- …当てはまらない

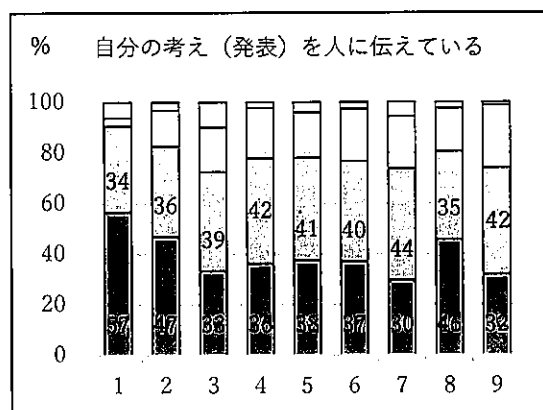
継続的な道德教育の成果か、久山町の子どもは他者への思いやりが育っていると考えられます。【資料1】の「人が困っている時、進んで助けていますか」では、どの学年も9割程度が肯定的な回答をしており、人とよりよく関わるための素地ができているといえます。

②自己肯定感に課題がある久山の子



【資料2】 自己肯定感に関するアンケート

一方、久山町の子どもは、自己肯定感に課題があると考えられます。【資料2】の「自分にはよいところがあると思うか」では、全体を通して8～9割の子どもが肯定的な回答をしていますが、全国と比べると必ずしも高いわけではありません。



【資料3】 自己表現に関するアンケート

【資料3】は、「自分の考え(発表)を人に伝えているか」という質問です。7～8割の子

どもが肯定的な回答をしています。学年が上がるほど肯定的な回答が減る傾向にあります。自分への自信のなさも関係していると考えられ、粘り強く取り組んだ結果、成果を体感する体験や、自己表現をする経験を積むことが重要であると考えます。

発想力や創造力が求められるこれからの時代に自己肯定感を高める教育を一貫して行い、久山町の子どもが、自己の特性を認識して自己発揮し、自分の可能性を広げるような取組を行う必要があります。

(4) 家庭が大切に思う道德教育

令和元年7月に幼・保・小・中の全保護者に対して行った「道德教育調査」では、多くの保護者が「自分のよさに気づき、多くの悔しい思いをして、強い心をもってほしい」「多くの人と関わり、お互いに喜びも痛みも分かち合う子どもたちに育てて欲しい」と記述しました。この調査は、昭和、平成、令和と3つの時代を跨いで調査していますが、たくましく優しい子になってほしいと願う保護者が大変多くいることがわかりました。

また、下の表は同調査で「道德で大切に思う48の項目」のうち、昭和時代に比べて伸び率が高い上位3項目です。

大切に思う上位3項目	昭和55年と比べて
幅広い見方や考え方	4.1倍
充実した生きがい	3.4倍
基本的人権を守る	3.2倍

保護者は今、多様な価値が存在する社会で様々な意見を尊重し、強い心を持って充実した人生を送ってほしいと願っています。

2 構想（カリキュラム・マネジメント6点の枠組み）

(1) 何ができるようになるか（12年間で子どもにつけさせたい資質・能力）

- ・自分を高める…「自分で決める力」「自分を発揮する力」「やり抜く力」
- ・人とよりよく関わる…「他者意識」「多様性の尊重」

(2) 何を学ぶか

〔(1)の目標達成に向けて、どの教科等を核にするか〕

幼稚園・保育園

- 5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)
- …目標をもった活動、振り返り

小・中学校

- 生活、総合、特別活動
- …目標をもとに活動、振り返り
- 道徳科
- …自己内省

(4) 子どもの発達をどのように支援するか 〔12年間の連続した学びをつなぐために 校種間をどうつなぐか〕

- 異校種の違いを理解する
- 接続カリキュラムをデザインする
- ポイント1 現場を見る
- ポイント2 交流時間を確保する

(6) 実施するためには何が必要か 〔カリキュラムを遂行するために必要な 人的・物的体制はなにか〕

- 各校の今までの財産の整理
- 道徳推進委員会
- 地域学校協働本部

(3) どのようにして学ぶか

〔(2)の学習において、どのような過程で
目標に到達するか〕

- 1 よりよく生きようと目標をもつ
(自分がやることを決める)
- 2 自分で考え、判断し行動する
(他と関わりながらやってみる)
- 3 振り返って自分の生き方を考える
(自分のよさや成長を見つめる)

(5) 何が身に付いたか

〔子どもの育ちをどう見取るか〕

- 教職員質問紙調査
- 児童生徒質問紙調査
- 子どもの観察・エピソード記録

久山町の子ども

(1) 何ができるようになるか（12年間で子どもにつけさせたい資質・能力）

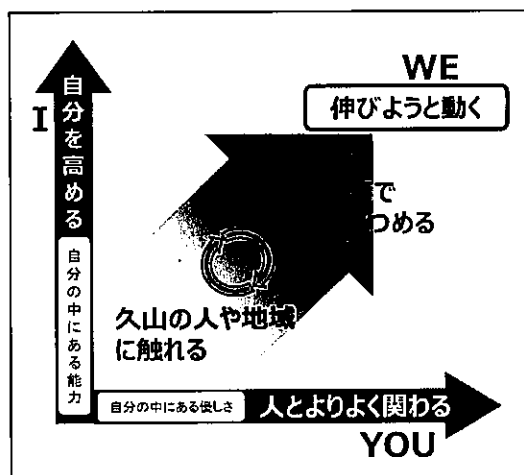
「伸びようと動く」子どもを育む

2つの軸で主体的に学ぶ力を身に付ける。具体的には5つの力を身に付ける。

- ・自分を高める …「自分で決める力」「自分を発揮する力」「やり抜く力」
- ・人とよりよく関わる …「他者理解」「多様性の尊重」

①「伸びよう」とする子ども

園や学校では、多様な性格や考え方をもった同年齢の子ども同士が時間や空間を共有して学習したり遊んだりします。その中で、自分の個性を発揮して友だちの役に立ったり、友だちの個性に触れて新たな考えへと広げたりして成長していきます。



【資料4】目指す子ども像のイメージ図

園や学校を通して子どもは、2つの軸で成長していきます。縦軸は、自分らしさを発揮し、失敗を乗り越えながら成功体験を繰り返す、「自分（I）を高める」軸です。横軸は、多様な人の考えや価値観に共感的に触れながら、「人（YOU）とよりよく関わる」軸です。

この縦軸と横軸を12年間で一体的、計画的に育むことで、学校や社会（WE）で主体的に学ぶ子どもへと成長すると考えます。

②「動く」子ども

「動く」とは、自分の思いなどを表出している状態です。そのためには、下のような5つの力が身に付く必要があります。

○「自分を高める」3つの力

①自分で決める力

課題の解決法、よりよい生き方などを自ら判断する。

②自分を発揮する力

自分の個性を生かそうとしたり、自分の役割を全うしたりする。

③やり抜く力

あきらめずに粘り強く取り組む。

○「人とよりよく関わる」2つの力

①他者理解

共にかけがえのない存在であることを自覚し、思いやりや感謝の心を態度で示す。

②多様性の尊重

多様な見方や考え方があることを知り尊重するとともに、相手から学ぶとする姿勢をもつ。

「伸びようと動く」とは、自分を高めようとしたり、人とよりよく関わろうとしたりするために、自分から積極的に動いたり、他者の思いに応じて動いたりすることです。

★久山町幼・保・小・中の子どもの身に付けてほしい資質・能力

○ 福岡県の課題

幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐカリキュラム・マネジメント （久山町は、福岡県の課題を解決す

○ 久山町でめざす姿

『伸びようと動く子ども』 …目標に挑んで自分を高めようとする力、人によりよく関わり視野を広げる

○ 各年齢、学年で段階的に目指す子どもの資質・能力

自分を高める

	「自分を高める」ための3つの力		幼稚園・保育園の姿	小学校1，2年生の姿
	身に付けたい力	道徳科での 内容項目（例）		
資質・能力	自分で決める力	誠実 自主、自律	よいこと悪いことがわかり、自分なりに 考えて行動する。	よいと思うことを進んで 行い、正直で素直に伸び伸び と活動する。
	自分を発揮する力	個性の伸長 向上心	自分のやりたいことに向かって、遊びや 生活を進めていく中で、自分の力を発揮 する。	ほめられてうれしかった ことを、実感、表現する。
	やり抜く力	希望と勇気、 努力と強い意志	初めてのことや苦手なことにも挑戦しよ うとし、最後までやり遂げようとする。	自分のやるべきことを最 後までやり遂げようとする。
久山スタイルは、12年間一貫して行う				

人によりよく関わる

	「人によりよく関わる」ための2つの力		幼稚園、保育園の姿	小学校1，2年生の姿
	身に付けたい力	道徳科での 内容項目（例）		
資質・能力	他者理解	親切、思いやり 感謝	身近な人と触れ合う中で、互いの 思いや考えを共有しながら、 一緒に遊びを進めていく 楽しさを味わう。	幼い人や高齢者、友だち など身近な人と積極的 に関わり親切に接する。 お世話になっている人 へ感謝の気持ちを言葉 や態度で表す。
	多様性の尊重	相互理解、寛容 集団生活の充実	自分の意見をはっきりと伝えるとともに、自分と は異なる感じ方があることに気づく。	
久山スタイルは、12年間一貫して行う				

るための研究指定を、令和元・2・3年の3年間受けています。)

態度を主体的に伸ばそうとすることができるようになる。

自分を高める

	小学校3, 4年生の姿	小学校5, 6年生の姿	中学校の姿
資質・能力	周囲に安易に流されず、正しいと思うことを自分の意志で判断し行動する。	失敗をしても、自分の責任で正しいと思うことを判断し行動する。	何が正しく、何が誤りかを自ら判断して望ましい行動をとる。 自らを律し、人間として誇りをもった責任ある行動をとる。
	自分の長所に気づく。	自分の長所を積極的に伸ばそうとする。	自分の長所を肯定的にとらえ、自己の優れている面などの発見に努める。 自己の個性を生かそうとしたり、向上させようとしたりする。
	自分でやろうと決めた目標に向かって、粘り強くやり遂げる。	より高い目標を設定し、困難があっても挫けずにやり遂げる。	困難や失敗の体験も受け止め、自分自身の弱さにも打ち克ち、挑戦することから逃げないで努力する。
久山スタイルは、12年間一貫して行う			

人によりよく関わる

	小学校3, 4年生の姿	小学校5, 6年生の姿	中学校の姿
資質・能力	相手の気持ちを想像して相手を受け入れ、親切な行為を行う。 自分の生活を支えてくれる人に尊敬と感謝の念をもって接する。	相手の気持ちを自分のこととして考え、誰に対しても親切に接する。 自他を尊重し、温かな人間関係を築こうとする。	自分も他者も共にかけがえのない存在であることを自覚し、思いやりや感謝の心を態度で示す。
	自分の意見をはっきりと伝えるときに、相手の異なる意見を傾聴する。	自分の意見をはっきりと伝えるときに、多様な意見を素直に聞き、相手の立場になって考える。	自分の意見を伝えるとともに、相手の立場や個性、文化を尊重し、多様な見方・考え方を尊重する。 相手から謙虚に学ぶ。
久山スタイルは、12年間一貫して行う			

(2) 何を学ぶか (研究の内容)

- 幼稚園・保育園では、5領域を通して活動する。
- 小学校・中学校では、生活科や総合的な学習の時間、特別活動で体験的に学び、道徳科で自分を見つめる。

①出会いや体験を通して5つの力を育む

子どもが「自分で決める」「自分を発揮する」「やり抜く」「他者理解」「多様性の尊重」の5つの力を身に付けるためには、多様な人との出会いや体験が重要です。核となる教科等を定めてカリキュラム・マネジメントを行います。

ア. 幼稚園・保育園では、5つの領域全体を通して

幼稚園・保育園では、保育や教育のねらい、内容について、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域を編成し活動しています。幼児の発達には、様々な側面が相互に影響を与え合いながら遂げられるので、5領域を総合的に指導していきます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の重点化 (例)

○「自分を高める」ために

「思考力の芽生え」

自ら判断したり考え直したりして、新しい考えを生み出す喜びを味わう

「自立心」

少し難しいことも、「できた!」と満足感を味わう体験をする

○「人とよりよく関わる」ために

「協同性」

多様な感情体験を味わう中で、友達との関わりを深める

「言葉による伝え合い」

伝えたいような体験をする

「重点化 (例)」のように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて、保育や教育活動を工夫するプログラムをつくり、小学校へとつないでいきます。

イ. 小学校・中学校では、生活科、総合的な学習の時間、特別活動を通して

「生活科」は、自分自身についての気づきを大切にした教科です。「総合的な学習の時間」では、探究学習において学んだことを自己と結び付けて自分の成長を自覚したり、自己の生き方を考えたりします。さらに「特別活動」では、集団活動や体験的な活動を行う場を通して、互いのよさや可能性を発揮する力をつけることができます。

各教科等での目標の重点化 (例)

○「自分を高める」ために

①自分のよさや得意としていること、興味関心をもっていることに気づく (生活)

②学んだことを自己と結び付けて自分の成長を自覚する (総合、特別活動)

③真剣に粘り強く探究する (生活・総合)

④自己の生き方を考える (総合)

○「人とよりよく関わる」ために

①集団生活になじみ、集団における自分の存在に気づく (生活)

②他者と協調して生活をしようとする (総合、特別活動)

③自他を尊重する、異なる他者と力を合わせる (総合、特別活動)

②「振り返り」を行い、自己を見つめる時間を設定する

ア. 幼稚園・保育園では、活動の振り返りを通して

幼稚園・保育園では、活動の区切りに教師や友だちとともに「振り返り」の経験を積むようにします。時には、教師が適切な言葉かけ（賞賛、励まし、評価）をすることも含めて、振り返りをするすることで、幼児は徐々に過去と今、今と未来の関係に気づくようになり、活動の見通しや期待がもてるようになっていきます。

イ. 小学校・中学校では「道徳科」などを通して

小中学校では、自身で身に付けた資質・能力について、補い、深め、統合するために、「道徳科」において、計画的に自分を見つめる時間をつくります。

特に以下の内容項目を重点的に取り組むように計画を立てます。

○「自分を高める」ために

①誠実、自主、自律

→自分で決める力へ

②個性の伸長、向上心

→自分を発揮する力へ

③希望と勇気、努力と強い意志

→やり抜く力へ

○「人とよりよく関わる」ために

①親切、思いやり、感謝

→他者意識へ

②相互理解、寛容、集団生活の充実

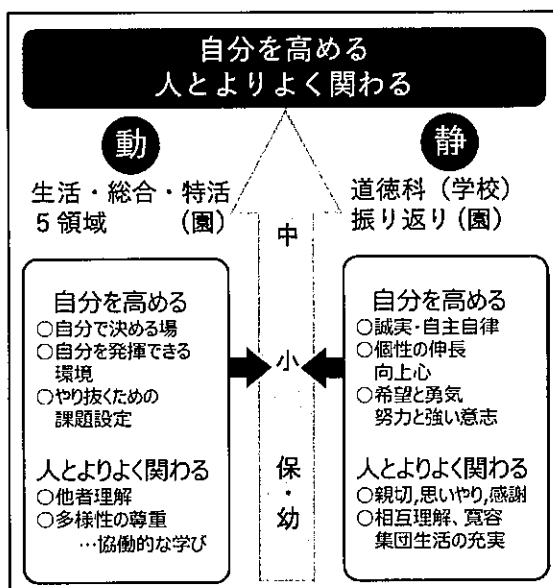
→多様性の尊重へ

③体験的な活動と、振り返りの往復活動でめざす姿へ

体験活動や人との出会いをともなう動的な活動、よりよい自分を追究する活動を計画的に仕組みます。

また、学習に真剣に取り組んだことや成長したことなどを振り返り、落ち着いて自分を見つめる時間を保障します。

【資料5】のように、動きのある活動と静かに自分を見つめる時間を往復しながら、自分のよさや可能性を認識できる自己肯定感を育てていくようにします。



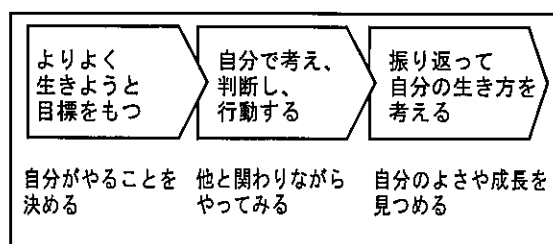
【資料5】動的な活動と静的に自分を見つめる時間の往復活動により目標に到達する

本研究では、5領域、生活科、総合的な学習の時間、特別活動と道徳科等との教育活動をいつ、どのタイミングで行うと子どもにとっていいのか、必要な人やものは何かについて、計画的、組織的に議論します。こうして、教育効果の最大化を図っていきます。

(3) どのようにして学ぶか（子どもの学び方）

- 3段階で学ぶ ①よりよく生きようと目標をもつ。
②自分で考え、判断し、行動する。
③振り返って自分の生き方を考える。

子どもは、上記の3つの段階で学びます。受け身の学習ではなく、自分で目標を立て、行動してみて、振り返ることを確実に、組織的に行うことで、主体的に「伸びようと動く」子どもが育まれると考えます。



①よりよく生きようと目標をもつ

1単位時間、あるいは1つの単元学習において、子どもは自分なりの目標を設定します。

「幼稚園の友だちが喜ぶようなゲームを考えたい」「地域の方と仲良くなるために自分から会話をしてみたい」「首羅山（歴史）学習を通して、昔の人の知恵を自分の生き方につなげたい」など、学習によって役割や立場による目標を設定するようにします。

授業をつくる際、教師は「自分を高める」「人とよりよく関わる」の中にある5つの力のいずれかを、ねらいとして位置付けるようにします。

②自分で考え、判断し、行動する

子どもは、自分で立てた目標は、どうすれば達成できるのか見通しをもって、やってみます。まさに「動く」状態です。

先輩や先生、友だちや地域の方など、よいモデルを見ることが、解決への鍵です。また、友だちと議論してよりよい解決策が生まれることもあります。

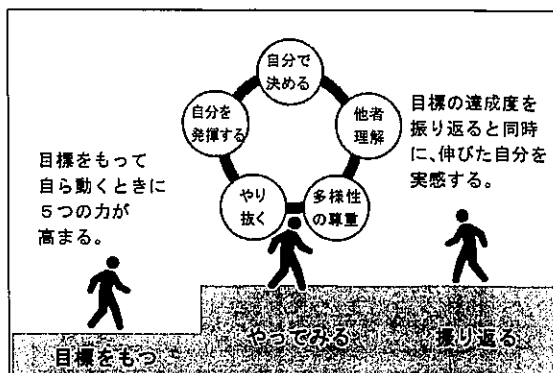
このときに粘り強く取り組む姿勢や多様な人との出会いを通して多様性を尊重する態度が育まれます。

③振り返って自分の生き方を考える

自分で考えた方法で達成できた時に子どもは満足感や充実感をもち、自分のよさや可能性を認識します。

目標にどれだけ近づけたかという達成度を振り返り、自分の成長や自分の特徴、よさを見つめることは、自己の感情や行動を統制する力などの「非認知的能力」、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する力といった「メタ認知」も培われることにつながります。

道徳科においても同じで、教材の中の人物と自分を重ねたり、憧れを抱いたりしながら、自分へと置き換えるようにします。



【資料6】3段階を歩む過程で、5つの力を高める

★小中学校で導入されたキャリア・パスポートについて

小中学校の学習指導要領（平成 29 年告示）解説「特別活動編」には、学習や生活の見通しを立て、振り返るための教材活用として

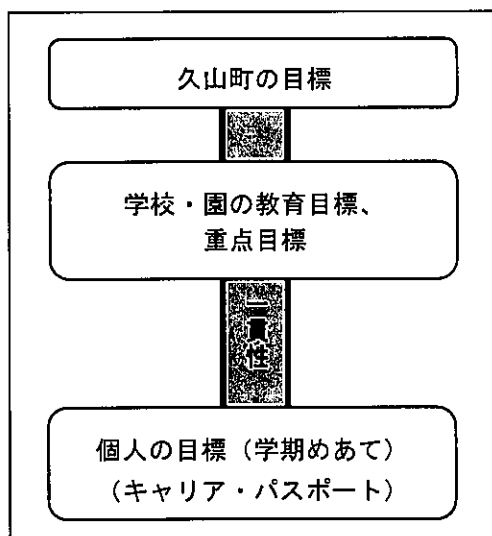
「児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」と示されています。つまり、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返る学習を重視しています。

児童生徒にとっては、小学校から高等学校を通じて、自己評価を行うとともに主体的に学びに向かう力や自己実現につなぐことができます。

教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を把握したり促したりして、系統的な指導を行うことができます。

この研究における位置付けとして、以下のア、イの 2 つの側面があります。

ア. 町の目標、学校の目標、個人の目標に一貫性をもたせる



【資料 7】町、学校、個人目標の概念図

【資料 7】の図のように、町の目標（本研究）、と学校の教育目標・重点目標、毎学期立てる個人の目標に「自分を高める」「人とよりよく関わる」という 2 つの視点を取り入れ、一貫性をもたせます。目標を書くことは見通しであり、目標を評価することが振り返りとなります。

【資料 8】小中学校の子どもが記入するめあて用紙

イ. 町内で内容をそろえることで、統一性と継続性をもたせる

【資料 8】は、小中学校の子どもが毎学期、記入するめあて用紙の形式例です。3 つの学校で、めあてを立てる視点を統一しています。

このように、町内で様式を揃えることで、教師が身に付けさせたい資質・能力や子どもの目標の意識や評価が連続、一貫します。

園では学期のめあてこそ書きませんが、2 つの視点で幼児に見通しと振り返りをさせることで 12 年間連続した学びが実現できます。

(4) 子どもの発達をどのように支援するか（接続カリキュラムの作成）

幼・保・小・中の校種間の学びをつなぐために、校種間による教職員で協議しながら、接続カリキュラムをデザインし、見直す。

①異校種の違いを理解する

ア. 幼稚園・保育園と小学校の違い

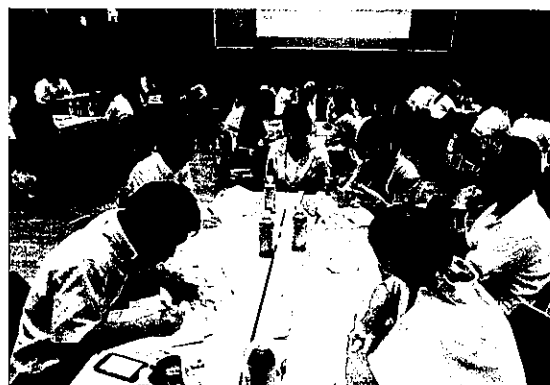
研究初年度の令和元年度教職員の研修（右の写真）では、校種間の違いについて以下のよう
にまとめました。学びの芽生えの時期である園
と自覚的な学びとなる小学校の違いです。

	幼稚園・保育園	小学校
教育課程	5領域を総合的に学ぶ	各教科等を系統的に学ぶ
時間	生活リズムに合わせた流れ	時間割に沿った流れ
教材	身の回りの人・もの・こと	教科書が主たる教材
環境	総合的に学ぶための環境構成	系統的に学ぶための学習環境
評価	個人内評価、伸びを見る（子ども理解）	目標標準評価

イ. 小学校と中学校の違い

同研修において、小学校と中学校の違いについて以下のような事が出されました。同じ義務教育でありながら違いがあることが、改めて整理されました。

	小学校	中学校
担任	学級担任制 ※令和4年度より一部教科担任制	教科担任制
指導内容・方法	生活に根差した内容・きめ細かな指導	抽象度の高い内容・内容を含む指導
評価	単元末テスト（短期スパン、業者）	定期テスト（長期スパン、自作）
生徒指導	規則がゆるやか	規則が明確
部活動	なし	放課後や土日の活動含む先輩後輩の関係



これら異校種の環境の違いが、いわゆる小1
プロブレムや中1ギャップを生み、子どもの安心した学びの妨げとなることがあります。この校種間の段差を教職員が小さくする工夫と、子ども自身が踏み越える資質・能力の両面が必要であると考えました。

教職員が、校種間の段差を小さくする工夫は、特に幼稚園・保育園から小学校に就学する「アプローチ・スタートカリキュラム」であり、この2つのカリキュラムを接続カリキュラムとして形づくっていきます。

子ども自身が段差を踏み越える力は、以下の2つの姿です。

- 本研究でめざす姿
 - ①自分で決める力
 - ②自分を発揮する力
 - ③やり抜く力
 - ④他者理解
 - ⑤多様性の尊重

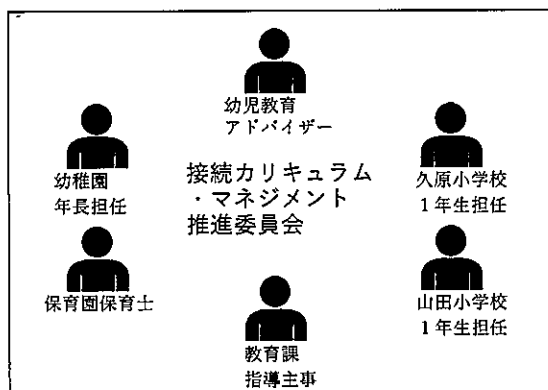
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

②接続カリキュラムをデザインする

特に幼稚園・保育園と小学校の学びをつなぐための接続カリキュラム（アプローチ・スタートカリキュラム）を作成する構成員や手順は以下の通りです。

ア. 構成員

中心となるのは幼児教育アドバイザーで、カリキュラムを司る各校の教務担当職員や園の年長担任、小学校の1年生担任が参加します。

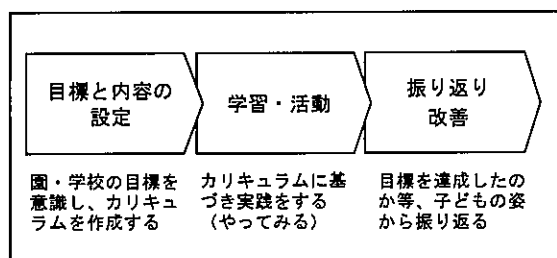


【資料9】接続カリキュラム推進の構成員

イ. 年間計画

幼児教育アドバイザーを中心とした協議は、年間3回ほどを基準に考えています。

時期	目的・内容
4、5月	小学校訪問 スタート・カリキュラムのプランの確認、見直し
7、8月	カリキュラム見直し、情報交換
3月	幼稚園・保育園訪問 アプローチ・カリキュラムの確認、見直し



【資料10】作成の手順の3つのプロセス

【資料10】は、異校種の教職員が交流する際のプロセスを図式化したものですが、「ウ、どのように学ぶか」の子どもの学び方で示した図に当てはめることができます。子どもも教職員も、見通しをもち、活動をして、振り返るという3つのステップをもつことが重要です。

ウ. 接続カリキュラム作成のポイント

校種間を超えた教職員同士が、接続カリキュラムを作成するためには、2つのポイントがあると考えます。

ポイント1…現場を見る

1つは、小学校の教職員は年長児の活動の様子を、幼稚園の教職員、保育園の保育士は小学校第1学年の児童の学習の様子を見るなど、必ず子どもの生身の姿を見る機会を設けることです。この現場主義が、研究と実態を乖離させないために必須であると考えています。

ポイント2…交流時間を確保する

2つは、活動の様子を見合う前後に教職員間で交流の場を設けることです。研究でめざす姿や園や学校でめざす姿が、見学する活動の様子にどのように具現化されていたのか、また、子どもの様子（活動）からカリキュラムをどのように編成し直したらよいのか、構想と実態をすり合わせる時間を設定します。

(5) 何が身に付いたか

- ①教職員や子どもの意識調査を行い、変容を評価する。
- ②学習・活動中の子どもの態度、振り返りの発言や記録で評価する。

①研究の目標

改めて本研究の目標を述べると次のようになります。

道徳教育を中核として、自分を高める力、人とよりよく関わる態度を発達段階に応じて育成するカリキュラム・マネジメントの在り方を究明する。

②目標到達のための仮説

今まで述べてきたことをまとめると、次のような仮説が立てられます。

5領域、生活・総合的な学習の時間、特別活動と道徳科を効果的にカリキュラムに位置づけ、校種間をつなぐカリキュラムをつくり、見直すことによって、学校や社会で主体的に学ぶ子どもが育つであろう。

③検証方法

この仮説を検証するために、次の3つの方法で検証していきます。

ア. 教職員質問紙調査

教職員のカリキュラム・マネジメントに関する調査です。

学校目標（重点目標）への意識、生活や総合的な学習の時間における目標意識等を調査し、その意識の変化を見ていきます。

対象	全教職員
時期	9月（年に1回）
何ができるようになる	・学校・園の教育目標を理解しているか ・町の教育目標・特色について理解しているか
何を学ぶか	・学年の年間カリキュラムを把握しているか ・学習前、同学年で目標や内容の確認をしているか
どのように学ぶか	・学習始め、子どもに目標をもたせているか ・学習中、子どもの思考の時間を確保しているか ・学習後半、子どもに振り返りをさせているか
子どもの発達をどう支援するか	・子どもの実態に合わせた支援をしているか ・研修や交流で、異校種の特色をつかんでいるか
何が身に付いたか	・単元終了後、同学年で内容の見直しをしているか ・単元終了後、次年度のため記録を残しているか
実施するためには何が必要か	・必要に応じて地域の人・ものを活用しているか ・単元終了後、人・ものの活用を見直しているか

イ. 児童生徒質問紙調査

児童生徒の道徳教育に関する意識調査です。各項目4件法で実施し経年変化を見ます。以下は、調査項目の例です。

対象	小・中学生
時期	7月（年に1回）
自分で決める力	・自分で決めた目標に向かって、がんばっている ・よいと思うことや仕事を進んでしている ・先生や地いきの人にあいさつをしている
自分を発揮する力	・自分には、よいところがあると思う
やり抜く力	・失敗しても、くじけないで挑戦している
他者理解	・人が困っている時は、進んで助けている ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
多様性の尊重	・地いきの行事に参加している ・自分の考えを、人に伝えている ・自分と考えがちがう友だちの考えも大切にしている

ウ. 子どもの観察・エピソード記録

子どもの教育活動中の様子を観察したり、振り返りの記録を見たりします。写真に収めたり記録を整理したりして、質や量の変化を見ます。

(6) 実施するためには何が必要か（人的・物的な体制の確保）

カリキュラムを遂行するために必要、効果的な人的・物的な体制を確保する。
道徳推進委員会や地域学校協働本部を活用する。

カリキュラム・マネジメントは3つの視点
で遂行するようになっていきます。

- ①カリキュラムをデザインすること
- ②作成し、実施したカリキュラムを見直すこと
- ③人的・物的な体制を確保すること

3番目の「人的・物的な体制を確保すること」については、本町にある組織を活用しながら双方にとってよい体制を築いていく必要があります。

①道徳推進委員会

道徳推進委員会は、委員長を中心として、学校部会（校長・園長、道徳推進教師）、家庭部会（各PTA会長等）、地域部会（各団体）で構成され道徳推進の取組について計画、実行、振り返りを行っており44年間継続しています。またこの委員会は、年に4回程度開催されています。行っている活動は以下のとおりです。

道徳推進委員会の活動の一部

- ・道徳推進の日の実施、評価
（挨拶運動を毎月20日、弁当の日を年に3～5回ほど）
- ・町の広報誌に毎月「道徳」に関する町人の声を掲載して道徳教育の啓発
- ・道徳推進カルタ大会の実施
（毎年1月中旬）
※主催は町の子ども育成会

広報誌に、学校の取組を掲載して、保護者への啓発を図ったり道徳記念講演会において研究の内容についてお話しいただいたりして保護者と一体的に伸びようと動く子どもを育成しています。

②地域学校協働本部

地域学校協働本部には、3つの学校に各コーディネーター、そして3人のコーディネーターを総括する統括コーディネーターがいます。カリキュラムに沿った地域の人・ものと学校をつないでいただくことができます。

地域の人・ものを活用した活動例は以下のようなものがあります。

地域の人・ものを活用した活動例

- ・地域のお年寄りの方と交流し、人との関わり、郷土愛から生き方を見つめる授業
- ・町内にある公共施設、商業施設等を巡り、人との関わりを育む授業
- ・町内で盛んな農業体験を通して、人との関わりを育む授業
- ・町外にある学校と交流し、国際理解から自分の生き方を見つめる授業
- ・国指定史跡「首羅山遺跡」を体験的に学び、郷土愛から自分の生き方を見つめる授業
- ・町内外にある職場での体験を通して、自分の生き方を見つめる授業

3 手順（校種を超えたカリキュラム・マネジメントの充実）

（1）教育要領解説・指導要領解説に示されている手順例

幼稚園の「幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）」、小学校・中学校の「学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編」には、カリキュラム・マネジメントの手順の一例が述べられています。

保育園の「保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）」にはカリキュラム・マネジメントという表記はありません。しかし、「子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う」という保育の目標のもと、「保育の過程を記録するとともに、これらを踏まえ、指導計画に基づく保育の見直しを行い、改善を図ること」とあり、計画を実行した後の見直し、改善が重要視されています。

（2）校種を超えたカリキュラム・マネジメントの手順

幼稚園、保育園、小学校、中学校の異なる校種がカリキュラム・マネジメントを行うにあたり、以下の手順で行うようにします。

段階	行うこと	内容
目標設定	①資質・能力をつなぐ	町の特色、学校・園の教育目標、地域や家庭の願い等を総合して、12 年間一貫して育む資質・能力を決める。目標を決める。
	②内容をつなぐ	目標を達成するために、教科等の目標と関連付けながら、適した教科等を決定する。目標達成のための内容を決める。
	③組織をつくる	複数の校種で目標を達成するために、校種間をつなぎ、マネジメントの中核となる組織（構成員、日程、役割等）をつくる。
実践	④共有する	「一貫して育む資質・能力」と「取り組む教科等」について、全教職員で共通理解する。目標と内容のベクトルをそろえる。
	⑤各校園でつくる	焦点化された教科・領域について、現在ある一つ一つの教育活動（単元）の意義を問い直し計画する。
	⑥実践する	子どもが、学習で「目標設定」「実践（活動）」「振り返り」の過程を通して、資質・能力の高まりや広がりを実感する。
振り返り	⑦校園内で振り返る	校内の教育全体計画やカリキュラムが、目標達成のために有効に働いたか振り返り、改善を図り、次年度に備える。
	⑧町で振り返る	各校・園の実践が 12 年間で一貫して育む資質・能力を育むものとしてつながっているか確認する。ずれていたら修正する。

一番初めに取りかかるのは、目標設定です。カリキュラム・マネジメントの 6 つの枠組みの「何ができるようになるか（12 年間で子どもにつけさせたい資質・能力）」を様々な観点を総合して目標を定めます。久山町では、「自分を高める」「人とよりよく関わる」という目標を設定しました。

校種を超えたカリキュラム・マネジメントも、目標実現のために教育課程を編成し、実践し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立させることであることに変わりはありません。

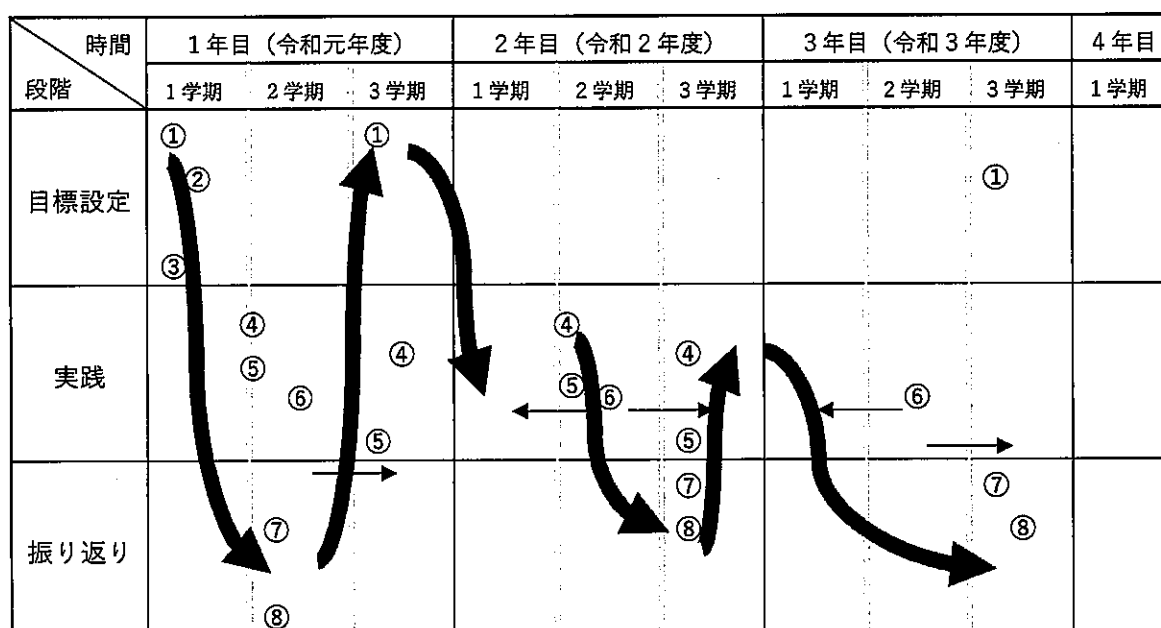
(3) 校種を超えたカリキュラム・マネジメントのスケジュール

1つの学校や園で、カリキュラム・マネジメントを行う場合は1年間でPDCAサイクルが循環し出すことが可能で

すが、校種を超えたカリキュラム・マネジメントは複数年を要すると考えます。

【資料12】は、本町で実践してきた8つの手順の大まかな時期です。

①	資質・能力をつなぐ（校種を超えた目標を設定）
②	内容をつなぐ（目標達成のための内容選択）
③	組織をつくる（校種間・校園内の推進体制の構築）
④	共有する（全職員との目標と内容の共通理解）
⑤	各校・園でつくる（町の目標と内容に合わせたカリキュラムの具体化）
⑥	実践する（活動・授業の実践、分析）
⑦	各校・園で振り返る（学校のカリキュラムの次年度への引き継ぎ）
⑧	町で振り返る（持続可能な目標と内容を設定）



【資料12】本町で実践したカリキュラム・マネジメントの大まかな時期

本町でのカリキュラム・マネジメントの手順の概要を振り返ると、①の「資質・能力をつなぐ」から⑧の「町で振り返る」まで、2学期の時間を要しました。

一度、①から⑧までを通すと、町で目指す資質・能力に修正が必要になってきました。したがって1年目の3学期にもう一度、①「資質・能力をつなぐ」を行い、町で目指すべき目標設定を修正します。修正後は、2年間実践と振り返りを繰り返しながら、学校や園で具体的にカリキュラムをマネジメントしていくこととなります。

資料中の薄いグレーの矢印からもわかるように、初めは大きなうねりを伴いながらPDCAサイクルを回し、次第に小さな回転でPDCAが回る流れとなります。校種を超えたカリキュラム・マネジメントを行う場合は、町内で目標設定から振り返りまでを行ったうえで、目標設定の修正を行い、各学校や園で具体的な実践を進めていくことが大切であると考えます。

(4) 8つの手順の詳細

①資質・能力をつなぐ（校種を超えた目標設定）

C・M …カリキュラム・マネジメント

協議の場	拡大C・M推進委員会（仮）、校長・教頭会で随時確認
C・Mの枠組	（１）何ができるようになるか
見方考え方	学校、家庭、地域の思いを「総合する」
方 法	○以下の４点を情報収集、整理・分析し、学校・地域・家庭の目標や願いを１つにまとめて一貫した目標を立てる。 ①各園・学校の教育・重点目標 ②子どもの実態（聞き取り、アンケート調査） ③保護者の願い（アンケート調査） ④町の教育施策（教育振興基本計画）



②内容をつなぐ（目標達成のための内容選択）

協議の場	拡大C・M推進委員会（仮）
C・Mの枠組	（２）何を学ぶか
見方考え方	町で決めた目標と各教科等との目標を「関連付ける」
方 法	○町で決めた目標と教科等の目標と関連付けながら町の目標を達成する上で適した教科等を選択する。 ○校種間（特に幼保と小中）の教育活動の目的や活動・教科の違いを明らかにして、共通点やつながり、発展の可能性を見いだす。



③組織をつくる（校種間・校園内の推進体制の構築）

協議の場	校長会、教頭会
C・Mの枠組	（３）どのようにして学ぶか
見方考え方	協議が必要なグループへ「分類する」、PDCAサイクルの実現を「見通す」
方 法	○複数の先行事例を収集し、本町により合致する視点で最小限の組織に分類する。 （全体を俯瞰する組織、具体的な活動レベルで推進する組織、校種間をつなぐ組織） ○「カリキュラムをつくる→実行する→見直す」日程の大枠を決める。



④共有する（目標と内容のベクトルをそろえる）

協議の場	幼・保・小・中の全教職員、（事前に）拡大C・M、（事前に）接続C・M
C・Mの枠組	（１）何ができるようになるか （２）何を学ぶか （４）子どもの発達をどのように支援するか
見方考え方	校種間の制度や環境の違いを「分類する」
方 法	○「何ができるようになるか」「何を学ぶか」を中心に、教育委員会から全職員へ説明する。 ○幼・保・小・中と校種が異なる教職員でグループをつくり、校種間の制度や環境の違いなどを出し合い共通点をまとめる。違いを軽減する方策を出し合いまとめる。



⑤各校・園でつくる（町の目標と内容を学校のカリキュラムに置き換える）

協議の場	校内C・M推進委員会、校内研修、学年研修
C・Mの枠組	(1)何ができるようになるか (2)何を学ぶか (3)どのようにして学ぶか (6)実施するためには何が必要か
見方考え方	教科等と教科等を「関連付ける」、時期や人ものを「見通す」
方 法	○校内C・Mにて、12年間の目標と内容の確認、1年間のC・Mの日程を見通す。 ○校内研修にて、教職員全体で目標と内容を確認する。 ○各学年等で現在のカリキュラムを俯瞰し、修正が必要なところを洗い出す。教科等の相互の関連（総合と道徳など）を明確にする。 ○各学年でさらに全児童生徒へ目標を伝える。



⑥実践する（活動・授業を実践し、分析する）

協議の場	校内C・M推進委員会、校内研修等
C・Mの枠組	(1)何ができるようになるか (2)何を学ぶか (3)どのようにして学ぶか (5)何が身に付いたか
見方考え方	目標と学習成果を「比較する」、目標に至った原因を「理由付ける」
方 法	○カリキュラムに沿った実践を行う。子どもは「目標」「実践」「振り返り」を繰り返し、自己の高まりを実感する。 ○目標に到達するための活動や交流として妥当であったか、また、その評価に至った理由や要因、根拠を見つける。



⑦校園内で振り返る（学校のカリキュラムを次年度に引き継ぐ）

協議の場	校内C・M推進委員会
C・Mの枠組	(1)何ができるようになるか (5)何が身に付いたか
見方考え方	現存の目標と子どもの現状、発達段階を「比較する」
方 法	○各学年の実践から、カリキュラムの見直しを図る。目標達成の指標の一つとして、学校・園の教育目標を達成しているか、判断材料とする。 ○改善案を講じ、次回の単元や教材、次年度に向けて継続可能なように整理する。



⑧町で振り返る（持続可能な目標と内容をつくる）

協議の場	接続C・M推進委員会
C・Mの枠組	(1)何ができるようになるか (3)子どもの発達をどのように支援するか
見方考え方	具体的な活動をカリキュラムへと「一般化する」
方 法	○①でつくっためざす子ども像の微調整を行う。子どもの発達段階や教科等の目標の妥当性と子どもの実態を比較しながら、よりよい子ども像となるように見直す。 ○園・学校間（保と幼）（小と小）の子どもの育ち、校内C・Mの内容等を比較し、共通点や相違点を明らかにする。修正が必要な相違点は修正する。

4 組織

(1) 拡大カリキュラム・マネジメント推進委員会

目 的	幼・保・小・中で一貫、継続したカリキュラム・マネジメントを図るため、目指す資質・能力を中心に共有、調整を図る。		
協議枠組	(1) 何ができるようになるか (5) 何が身に付いたか		
構 成	約 12 名	・道徳推進の代表校長 ・幼児教育アドバイザー ・各校、園教務主任 ・各校・園研究推進担当 ・教育委員会指導主事	
		★校長園長会で確認	
開 催	年に 3 回	・ 5 月 P (プラン) の確認 ・ 7～8 月 C (チェック) ・ 2 月 C・A (チェック・改善)	
		★学校又は教育委員会にて実施	

(2) 接続カリキュラム・マネジメント推進委員会

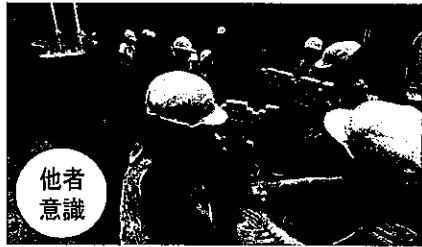
目 的	幼稚園・保育園と小学校とのつながりをスムーズに移行し、主体的に取り組む子どもを継続させるアプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラムの推進を図る。また、小学校と中学校をつなげるカリキュラムの推進を図る。		
協議枠組	(1) 何ができるようになるか (4) 子どもの発達をどのように支援するか		
構 成	幼保小 約 10 名	・各校教務主任 (幼児教育 AD 含) ・1 年生担任 ・幼稚園年長担任 ・教育委員会指導主事 園・小にて	小中 約 10 名
			・各校教務主任 ・中学校 1 年生担任 ・小学校 6 年生担任 ・教育委員会指導主事 小・中にて
開 催	年に 3 回	・ 4～5 月 P (プラン) の確認、小訪問、情報交換、「10 の姿」共有 ・ 8 月 C (チェック) を行う、情報交換 ・ 2～3 月 A・P (改善・プラン) の確認、園訪問、情報交換、「10 の姿」共有	

(3) 校内カリキュラム・マネジメント推進委員会

目 的	町で統一した目指す子どもの姿、学校教育目標実現に向けて、具体的にカリキュラムを作成、チェックする。		
協議枠組	(1) 何ができるようになるか (2) 何を学ぶか (3) どのように学ぶか (6) 実施するために何が必要か		
構 成	4～5 名	・園、学校長、教頭 ・教務主任 ・道徳推進担当教師 ・研究主任 (研究推進担当)	
開 催	年に 4 回 以上	・ 4 月 P (プラン) の確認 ・ 7 月 C (チェック) ・ 12 月 C・A (チェック・改善) ・ 3 月 A・P (改善・プラン) 作成	
		各園・学校にて	

1 幼・保・小・中の活動、生活科、総合的な学習の時間の一覧

3歳児から15歳（中学校3年生）まで、どの年齢（学年）でも「自分を高める」「人とよりよく関わる」ための活動、学習を行っています。連続、一貫した取組で主体的な学びをつないでいます。

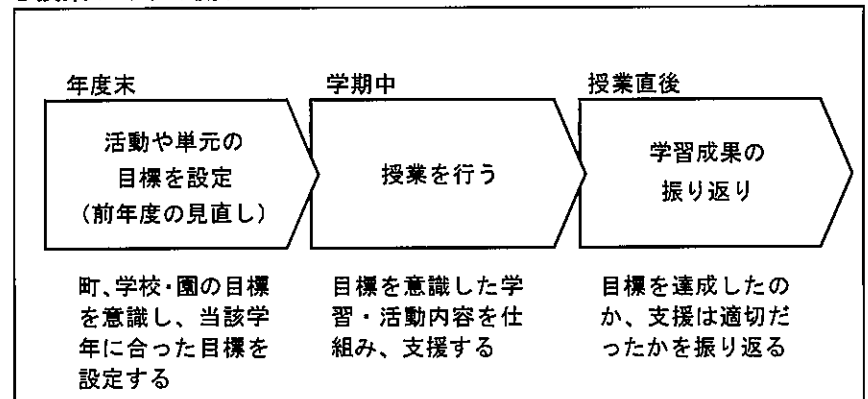
	3歳児	4歳児	5歳児
けやきの森幼稚園	 自分を発揮する力 「水と遊ぼう」 自分のやりたい遊びを見つけて繰り返し取り組み、のびのびと自分を表出しました。	 自分を発揮する力 他者意識 「みんなで砂場で遊ぼう」 自分の思いを十分に発揮しながら友だちとの関わりを広げていきます。	 他者意識 「プールランドをつくって遊ぼう」 友だちと共通の目的をもち互いの思いや考えを共有しながら一緒に遊びを進めています。
ひさやま保育園	 自分で決める力 「衣服の整理」 身辺自立を促すために、毎日自分で衣服の脱ぎ着を行い、自己を向上させています。	 他者意識 「運動会」 懸命に走る友だちに対して、一体となって応援し、友だちを思いやる心を広げていきます。	 やり抜く力 他者意識 「運動会」 みんなで息を合わせて、ひとつのものを創り上げる喜びを感じています。同時に成功する喜びも味わいます。

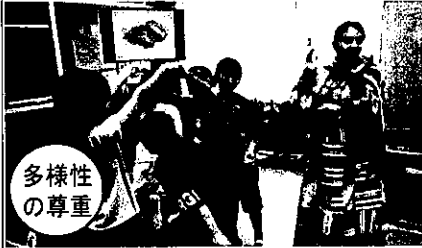
	第1学年	第2学年	第3学年
久原小学校	 やり抜く力 生活「はなや やさいをそだてよう」 花、野菜育ての名人さんに育て方を習いながら、苗植えから収穫まで根気強く育てました。	 他者意識 生活「まちたんけんにいこう」 町の探検で、お寺や公共施設を訪れます。町の中で様々な方が働いたり活動したりしている様子を聞きました。	 多様性の尊重 総合「おいちゃんおばあちゃんとふれあい隊」 運動会でのダンスを披露したり、一緒に昔の遊びをしたりしました。相手の立場に立って行動することができました。
山田小学校	 やり抜く力 生活「きれいにさいてね」 苗から植えたサツマイモ。水やり、草抜きなどのお世話をし、サツマイモを収穫することができました。	 他者意識 生活「もっとなかよし まちたんけん」 町の探検で、校区で働く人たちがどんな仕事をしているのか見たり話を聞いたりしました。	 多様性の尊重 総合「ふくし～わたしたちができること～」 手話、アイマスク、車椅子体験を通して、相手の立場にたって行動する大切さを学びました。

○授業づくりのポイント

- 本研究で目ざす姿を視野に、本単元で目ざす子ども像を具体化する。(前年度の財産を生かす)
- 目標達成に必要な人・ものを確認して、コンタクトをとる。
- 時数、時期を調整し、カリキュラム表に記録する。
- 授業中や授業直後に、時数、時期、必要だった人・ものを記録して来年度につなぐ。

○授業づくりの流れ



	第1学年	第2学年	第3学年
久山中学校	 他者理解 やり抜く力 総合「宿泊体験学習」 自分の役割に自覚と責任をもち、目標を達成しました。また他者を尊重し協力する大切さも実感しました。	 自分を発揮する力 多様性の尊重 総合「東京修学旅行」 実行委員会や係活動で自治の力を高め、他地域の習慣や文化に触れ、ものの見方・考え方を広げました。	 自分を発揮する力 他者理解 総合「職業体験」 将来を展望し、自分の生き方を考え進路実現の意欲を高めました。勤労者に対する理解・感謝の心をもちました。
			
	第4学年	第5学年	第6学年
久原小学校	 多様性の尊重 総合「水のふるさとをたずねて」 水のふるさとを訪れ、朝倉の水害や水と共にくらすための工夫を知りました。水の大切さと恐ろしさを考えました。	 やり抜く力 総合「米米大作戦」 種粃まき、田植え、稲刈り、案山子作り、餅つきと一連の米作りを体験して、収穫の喜びを味わいました。	 自分を発揮する力 総合「私たちの首羅山遺跡」 首羅山遺跡を学び、役割分担をして旅の準備をし、町の歴史の誇りを2泊3日で他町に伝え歩きました。
山田小学校	 多様性の尊重 総合「もっと知ろういろいろな国のこと」 ペルーと韓国の方と交流し、言葉、食事、遊びなど、他の国の様々な文化、よさを見つけました。	 やり抜く力 総合「山田っ子の米作り」 種もみ選びから収穫まで、GTの方と一緒にいき、稲の観察や草取りなどのお世話があって育つことが分かりました。	 自分を発揮する力 総合「私たちの首羅山遺跡」 首羅山遺跡の歴史を学び、国の宝になった遺跡の素晴らしさを後輩たちに伝えるために、できることを考えました。

2 けやきの森幼稚園

○子どもの発達に応じて段階的に目指す子どもの資質・能力

	3 歳児	4 歳児
育みたい 資質・能力	【自分を高める】 ○ 安心して園生活を過ごす中で、したい遊びを自分で見つけて遊んだり、園生活に必要な行動を自分でする気持ちをもったりする。 【人とよりよく関わる】 ○ 気の合う友だちと一緒に遊ぶことを楽しんだり、遊びや活動を通して、我慢したり譲ったりする気持ちをもったりする。	【自分を高める】 ○ 自分の思いを十分に発揮して遊ぶ中で、試したり工夫したりしながら自分なりに目的をもって遊ぶことを楽しむ。 【人とよりよく関わる】 ○ 友だちとの関わりを広げ、思いを伝え合いながら活動する。 ○ 友だちと一緒に遊ぶ中で、ルールを守って遊ぶことのおもしろさや大切さがわかる。
	3 歳児の後半に見られるようになる姿	4 歳児の後半に見られるようになる姿
健康な心と 体	○ 戸外で十分に身体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。 【自分を発揮する力】	○ 冬の生活に必要な態度や習慣を身につける。 【自分で決める力】 ○ 寒さに負けず、友だちと一緒に戸外で身体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。 【自分を発揮する力】
自立心	○ 自分でできることは、できるだけ自分でしようとする。 【自分で決める力】 ○ 進級することに喜びと期待をもつ。 【自分を発揮する力】	○ 年長組への期待をもち、様々な活動に意欲的に取り組む。 【自分で決める力】 ○ 少し難しい遊びに挑戦し、できた時の喜びを味わう。 【やり抜く力】
協同性	○ 友だちと関わり合いながら、伸び伸びと生活する楽しさを味わう。 【他者理解】	○ 同じ興味や関心をもつ友だちと、イメージを出し合って遊ぶ楽しさを味わう。 【他者理解】
道徳性・ 規範意識の 芽生え	○ みんなの物を大切に使う気持ちをもつ。 【多様性の尊重】 ○ みんなで遊ぶためのきまりを知り、自分なりにルールを守って遊ぶことを楽しむ。 【他者理解】	○ 勝ったり、負けたりを意識しながら、ルールのある遊びを楽しむ。 【他者理解】 ○ 異年齢児との関わりの中で、年長児への憧れや感謝の気持ちをもつ。 【他者理解】
社会生活 との関わり	○ 異年齢児との関わりを楽しむ。 【多様性の尊重】	○ 地域の方や未就園児など様々な人との触れ合いを楽しむ。 【多様性の尊重】
思考力の 芽生え	○ 身の回りの道具や用具の使い方が分かり、使うことを楽しむ。 【自分で決める力】	○ 遊びに必要な用具や材料を自分達で考え、使って遊ぶことを楽しむ。 【自分で決める力】 ○ 様々な道具や素材などを使って遊ぶ中で、形や色の組み合わせを工夫して表現しようとする。 【自分を発揮する力】
自然との 関わり・ 生命尊重	○ 季節の移り変わりに興味や関心をもつ。 【自分で決める力】 ○ 園内の身近な動植物に親しみ、可愛がる気持ちをもつ。 【自分を発揮する力】	○ 冬の事象や、冬から春への移り変わりに興味や関心をもつ。 【自分で決める力】 ○ 飼育している小動物に愛情をもって接しようとする。 【自分を発揮する力】
数量や図形・ 標識や 文字などへの 興味・関心	○ 様々な遊びを楽しむ中で、様々な絵や文字に親しむ。 【自分で決める力】	○ 様々な遊びを通して、文字や数量に対して興味や関心をもつ。 【自分で決める力】
言葉による 伝え合い	○ 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 【自分を発揮する力】 ○ 人の言葉や話を集中して聞き、自分の経験したことや考えを話すことを楽しむ。 【自分を発揮する力】	○ 自分なりの思いや考えを友だちと伝え合いながら遊ぶことを楽しむ。 【多様性の尊重】
豊かな感性と 表現	○ 友だちと一緒に、リズム遊びをする楽しさを味わう。 【他者理解】 ○ 様々なものを見たり触れたりして、自分なりに感じたことを表現しようとする。 【自分を発揮する力】	○ 友だちと同じイメージをもち、自分なりに伸び伸びと表現することを楽しむ。 【自分を発揮する力】 ○ 楽器を使って、リズムを合わせる楽しさを味わう。 【自分を発揮する力】

5 歳児 【自分を高める】 ○ 自分ですべきことを考え、役割意識や責任感をもって取り組む。 ○ 意欲的に遊びや生活を進めていく中で、自分の力を発揮し、満足感や達成感を味わう。 ○ 初めてのことや苦手なことにも挑戦しようとし、最後まで諦めずにやり遂げようとする。 【人とよりよく関わる】 ○ 友だちと共通の目的をもち、互いの思いや考えを共有しながら一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○ 友だちと協力しながら目的に向かって取り組む中で、一人一人の大切さや友だちがいることの素晴らしさを感じる。	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ※幼稚園教育要領解説より引用
5 歳児の後半に見られるようになる姿 ○ 寒さに負けず、戸外で元気に遊び、自分達で遊びを進めていく充実感を味わう。 【自分を発揮する力】 ○ 自分なりに目標をもって挑戦し、最後まであきらめずに取り組む。 【やり抜く力】	○ 幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる。
○ 幼稚園を卒園するという自覚をもち、きまりや約束を守り、当番活動などに対して自主的に行動しようとする。 【自分で決める力】 ○ 小学校への入学を楽しみにし、自信をもって行動する。 【自分で決める力】	○ 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
○ 友だちのよさに気づいたり認め合ったりしながら、友だちと共通の目的に向かって自分達で遊びや活動を進める楽しさを味わう。 【他者理解】 ○ 一人一人の力を出し合いながら、学級全体やグループで表現することを楽しむ。 【他者理解】	○ 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
○ 自分の気持ちに折り合いをつけながら、友だちと一緒に、きまりを作ったり守ったりして遊ぶ。 【他者理解】 ○ 異年齢児との関わりを通して心を通わせ、大きくなった喜びを感じる。 【多様性の尊重】	○ 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがわかり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性がわかり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりを作ったり、守ったりするようになる。
○ お世話になった人々に親しみや感謝の気持ちをもつ。 【他者理解】 ○ 小学校見学や交流を行い、小学校への期待をもつ。 【自分を発揮する力】	○ 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。
○ 身近な自然や遊びに関わる中で、物事の性質や仕組みに気づき、考えたり工夫したりする。 【自分で決める力】 ○ 友だちの考えを受け入れながら、より楽しくなる遊びを自分達で考えたり、作り上げようとしたりする。 【多様性の尊重】	○ 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気づいたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
○ 自然現象の変化に気づき、興味や関心をもつ。 【自分を発揮する力】 ○ 飼育している小動物や栽培している植物の世話に責任をもつ。 【自分で決める力】	○ 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
○ 数量や図形、位置、時間に関心をもち、生活の中で使おうとする。 【自分で決める力】 ○ 遊びや生活の中で、文字や言葉、数字を使ってやりとりすることを楽しむ。 【自分を発揮する力】	○ 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気づいたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
○ 自分の気持ちを言葉にして、人前で話そうとする。 【自分を発揮する力】 ○ 人の話を割り込まないで最後まで聞こうとする。 【他者理解】 ○ 友だちとの関わりの中で、言葉で伝え合うことを喜ぶ。 【自分を発揮する力】	○ 先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
○ イメージを豊かにしながら、友だちと話し合い、共通の目的に向けて取り組もうとする。 【他者理解】 ○ 感じたことや考えたことを様々な方法で表現する喜びを味わう。 【自分を発揮する力】	○ 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

○5歳児 第10期[※] (9・10月)のカリキュラム

※幼稚園では3歳児からのカリキュラムを、1～12期に分けてカリキュラムを作成しています。

重点目標	〈自分を高める〉 ○ 戸外で身体を十分に動かし友だちと一緒に遊ぶ中で、自分の課題や役割を意識して最後まで取り組む気持ちをもつ。 〈人とよりよく関わる〉 ◎ 友だちの力や考えも受け入れながら、遊ぶ大切さに気づく。 ◎ ルールを考えたり、守ったりして、友だちと遊びを進める楽しさを味わう。	
領域	具 体 的 な ら い	具 体 的 内 容
健康	○ 自分の課題をもって取り組み、できたことに充実感を味わう。 ○ 戸外で身体を十分に動かし、様々な動きに意欲的に挑戦しようとする。 ○ 遊具や用具の安全な使い方を知り、考えて使おうとする。	・思いきり競ったり、頑張ったりしながら自分なりの力を出して遊ぶ。 ・合図や指示をよく聞き、行動する。 ・いろいろな運動に興味をもち、進んで行う。 ・自分達で道具を準備したり片付けたりする。
人間関係	◎ 友だちとの遊びの中で、思いを出し合いながら自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○ ルールを考えたり守ったりして遊ぶことを楽しむ。 ◎ 自信をもって異年齢児と関わり、思いやりの気持ちをもつ。	・自分の力を発揮したり、友だちの力を認めたりしながら遊ぶ。 ・自分のチームや友だちを応援し、勝った時の喜びや負けた時の悔しさを感じながら取り組む。 ・運動会に向けての活動や、集団ゲームなど、ルールのある活動に進んで取り組む。 ・友だち同士でルールの足りないところを考え合ったり、ルールを守れていないところを教え合ったりする。 ・一緒に遊ぶ中で、年少・年中児の力やペースに合わせようとする。
環境	○ 飼育している小動物や、栽培している植物の世話を、責任をもってしようとする。 ◎ 園内外の人や自然に関わり、親しみをもつ。 ○ 文字や数字に興味や関心をもつ。	・飼育している小動物や栽培している植物を大切に、過ごしやすい環境を考えたり、進んで水をやったりする。 ・園外保育に出掛け、地域の自然に触れ合ったり、季節の変化を感じたりする。 ・身近な自然を遊びに取り入れ、試したり確かめたりする。 ・数量、文字、時間に関心をもち、生活の中で使って遊ぶ。
言葉	○ 様々な活動を通して、感じたことや思ったことを言葉で表現する大切さに気づく。 ◎ 話し合いの中では、自分の意見だけでなく、友だちの意見も取り入れようとする。	・好きな絵本を繰り返し聞き、深く感じ取る。 ・身近な出来事を自分なりに感じたり、疑問をもったりする。 ・ルール違反やずるい行動に対して注意し合う。 ・グループでの話し合いの中で、遊びが楽しくなるために意見を伝え合う。
表現	○ 経験したことや感じたことを様々な方法で表現する大切さに気づく。 ◎ 友だちの発想や工夫のよさに気づく。	・秋の自然物を取り入れて、自分達の遊びの中で工夫して遊ぶ。 ・感じたこと、考えたことを、人前で表現する。 ・歌ったり踊ったり、感じたことを表現し、友だちと伝え合う。

幼児の姿	○ 遊びへの興味が広がり、友だちのやっていることをじっと見たり、自分もやってみようとしたりなど、刺激を受けながら個々に試す姿が見られる。また、友だち同士の会話も盛んになり、言葉の表現も豊かになってくる。 ○ 思いきり、体を動かすことを好み、自分なりの目的をもって頑張ろうとする気持ちが高まってくる。 ○ 身の回りの自然事象や事物に対して興味や関心が高まり、よく見たり考えたりする様子が見られる。 ○ 指示に対する理解が早くなるとともに、様々なことを自分から進んでやってみようという気持ちが育ってくる。												
環境の構成	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="220 483 855 551"> ・自分なりに試したり、挑戦したりできるような遊具や用具を準備する。 ・遊びの中で身体の様々な動きが体験できる活動が生まれるような環境を構成する。 ・友だちとの遊びがより楽しくなるように、イメージを広げていく素材や遊具を出していく。 ・開放感を味わいながら伸び伸びと遊ぶことのできる場を確保する。 ・暑さに備えてテント等の日よけを準備し、休養がとれる場を確保する。 ・秋の自然に親しみをもち、必要な時に自分で見たり、調べたりできるよう、図鑑や絵本を準備しておく。 </th><th data-bbox="855 483 1474 551"> 具 体 的 活 動 </th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>○ 猪野川で水に親しみ、川の生き物に興味をもって、探したり、捕まえたりして遊ぶ。</td></tr> <tr> <td></td><td>○ 気温の変化に応じて身体を休めたり、水分を補給したりする。</td></tr> <tr> <td></td><td>○ 様々な運動遊具を利用して、カー杯に取り組み、挑戦する。</td></tr> <tr> <td></td><td>○ 友だちとルールを守ったり、役割を分担したりしながら、リレーやゲームなどの競争をする。</td></tr> <tr> <td></td><td>○ 運動会に向かう活動の中で、年長としての役割を果たし、自信をもって行動する。</td></tr> </tbody> </table>	・自分なりに試したり、挑戦したりできるような遊具や用具を準備する。 ・遊びの中で身体の様々な動きが体験できる活動が生まれるような環境を構成する。 ・友だちとの遊びがより楽しくなるように、イメージを広げていく素材や遊具を出していく。 ・開放感を味わいながら伸び伸びと遊ぶことのできる場を確保する。 ・暑さに備えてテント等の日よけを準備し、休養がとれる場を確保する。 ・秋の自然に親しみをもち、必要な時に自分で見たり、調べたりできるよう、図鑑や絵本を準備しておく。	具 体 的 活 動		○ 猪野川で水に親しみ、川の生き物に興味をもって、探したり、捕まえたりして遊ぶ。		○ 気温の変化に応じて身体を休めたり、水分を補給したりする。		○ 様々な運動遊具を利用して、カー杯に取り組み、挑戦する。		○ 友だちとルールを守ったり、役割を分担したりしながら、リレーやゲームなどの競争をする。		○ 運動会に向かう活動の中で、年長としての役割を果たし、自信をもって行動する。
・自分なりに試したり、挑戦したりできるような遊具や用具を準備する。 ・遊びの中で身体の様々な動きが体験できる活動が生まれるような環境を構成する。 ・友だちとの遊びがより楽しくなるように、イメージを広げていく素材や遊具を出していく。 ・開放感を味わいながら伸び伸びと遊ぶことのできる場を確保する。 ・暑さに備えてテント等の日よけを準備し、休養がとれる場を確保する。 ・秋の自然に親しみをもち、必要な時に自分で見たり、調べたりできるよう、図鑑や絵本を準備しておく。	具 体 的 活 動												
	○ 猪野川で水に親しみ、川の生き物に興味をもって、探したり、捕まえたりして遊ぶ。												
	○ 気温の変化に応じて身体を休めたり、水分を補給したりする。												
	○ 様々な運動遊具を利用して、カー杯に取り組み、挑戦する。												
	○ 友だちとルールを守ったり、役割を分担したりしながら、リレーやゲームなどの競争をする。												
	○ 運動会に向かう活動の中で、年長としての役割を果たし、自信をもって行動する。												
援助の要点	<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="220 1200 855 2007"> ・自分たちで主体的に生活する意欲がもてるように、話し合いの機会をもつ。 ・自信につなげるよう、自分なりの目的をもって頑張っている姿を励ます。 ・友だちと遊ぶことの楽しさを感じ取っていけるよう、友だちと刺激し合ったり教え合ったりする姿を大切にする。 ・運動会に向けた練習を通して、苦手に思うことにも挑戦しようとする姿を認め、さらなる挑戦意欲につながるように声かけをする。 ・学年やクラスで取り組む活動を通して、最後までみんなで頑張ることの充実感を味わえるよう、認めの声かけをしていく。 ・クラスの一人一人が大切な仲間であることに気づいていけるよう、振り返りの機会をもつ。 </td><td data-bbox="855 1200 1474 2007"> ○ 学年やクラスみんなで力を合わせて、演技を行う。 ○ 地域との関わりを広げて、小学校や未就園児と交流する。 ○ 秋の自然の中で全身を使って遊んだり、集めた自然物を使って遊んだりする。 ○ 虫を見つけ、種類や飼育方法を調べて、飼う。 </td></tr> </tbody> </table>	・自分たちで主体的に生活する意欲がもてるように、話し合いの機会をもつ。 ・自信につなげるよう、自分なりの目的をもって頑張っている姿を励ます。 ・友だちと遊ぶことの楽しさを感じ取っていけるよう、友だちと刺激し合ったり教え合ったりする姿を大切にする。 ・運動会に向けた練習を通して、苦手に思うことにも挑戦しようとする姿を認め、さらなる挑戦意欲につながるように声かけをする。 ・学年やクラスで取り組む活動を通して、最後までみんなで頑張ることの充実感を味わえるよう、認めの声かけをしていく。 ・クラスの一人一人が大切な仲間であることに気づいていけるよう、振り返りの機会をもつ。	○ 学年やクラスみんなで力を合わせて、演技を行う。 ○ 地域との関わりを広げて、小学校や未就園児と交流する。 ○ 秋の自然の中で全身を使って遊んだり、集めた自然物を使って遊んだりする。 ○ 虫を見つけ、種類や飼育方法を調べて、飼う。										
・自分たちで主体的に生活する意欲がもてるように、話し合いの機会をもつ。 ・自信につなげるよう、自分なりの目的をもって頑張っている姿を励ます。 ・友だちと遊ぶことの楽しさを感じ取っていけるよう、友だちと刺激し合ったり教え合ったりする姿を大切にする。 ・運動会に向けた練習を通して、苦手に思うことにも挑戦しようとする姿を認め、さらなる挑戦意欲につながるように声かけをする。 ・学年やクラスで取り組む活動を通して、最後までみんなで頑張ることの充実感を味わえるよう、認めの声かけをしていく。 ・クラスの一人一人が大切な仲間であることに気づいていけるよう、振り返りの機会をもつ。	○ 学年やクラスみんなで力を合わせて、演技を行う。 ○ 地域との関わりを広げて、小学校や未就園児と交流する。 ○ 秋の自然の中で全身を使って遊んだり、集めた自然物を使って遊んだりする。 ○ 虫を見つけ、種類や飼育方法を調べて、飼う。												
行事	・2学期始業式 ・身体測定 ・防犯教室 ・プール納め ・参観日（9月） ・運動会												

3 ひさやま保育園杜の郷

○6ヵ年カリキュラム

	0歳		1歳	2歳
育みたい 資質・ 能力	保育者との関わりや日常の遊び の中で、身体的発達の基盤を培 う。		保育者の受容的・応答的な関わり を通して、安心して自我を表 出する。	心と身体が発達が安定し、自 発的に生活する力・遊びへの 意欲が高まる。
養護	・個々の生活リズムを重視する。生 理的欲求を満たし、生命の保持と 安定を図る。一人ひとりの要求を 受け止め、保育者との情緒的結び つきを強めながら人間関係の基礎 をつくる。		・自分でしようとする気持ちの芽生 えを大切にする。保育者の援助を 通して基本的生活習慣が身に付く ようにする。	・保育者との関わりを通して、規 則正しい生活リズムを確立して いく。友だちといふことの居心 地のよさを感じられるようにし ていく。
	0歳児後半にみられるようになる姿		1歳児後半にみられるようになる姿	2歳児後半にみられるようになる姿
健やかに 伸び伸び と育つ	・穏やかで安定した生活を通じ、主 体的な存在としての”自分”とい う感覚を育む。 ・自分のペースが尊重され、心地よ くなる経験が重なることで、人や 周囲に対する信頼感が育つ。 ・一人ひとりの発育に応じた心地よ い環境の中で、盛んに身体を動か す。 ・保育者の表情豊かな関わりの中 で身体や手足が動くことの喜びを 体験する。	健康	・安全な環境の中で、歩行の完成と 運動機能が発達していく。 ・子どものペースや気持ちを尊重し た丁寧な関わりを通して、自分 でしようという意欲が高まる。	・様々な動きや姿勢を伴う遊びを 繰り返し、身体や運動機能が高 まる。
		人間関係	・受容的・応答的な関わりを通し て、他者の思いを知っていく。 ・保育者の仲介により、友だちと関 わることへの心地よさや楽しさを 知る。 ・保育者の仲介を通して、友だちと のやり取りを楽しむ。	・保育者の仲介により、友だちの 存在に気づき、関わり方を身に 付けていく。 ・保育者の受容的な援助の下、状 況と折り合いをつける経験を重 ねる中で、自分の感情をコント ロールすることへの気づきが生 まれる。
身近な人 と気持ちが 通じ合 う	・一人ひとりの生理的欲求に応じて 満たされることで安心感が育つ。 ・応答的な関わりを通して、人と関 わりたい・認めてほしいという心 理的欲求が育つ。 ・目を合わせた保育者の応答的な関 わりや語りかけにより、自分の意 志や欲求を声や難語・しぐさで伝 えようとする。 ・身近な大人と感覚や感情を共有す る経験を重ねることで、言語理解 や子どもの発語への意欲が育つ。	環境	・安心できる保育者の存在を拠り所 にして、活発に探索活動を行う。 ・様々な物に触れる中で、探究心・好 奇心が芽生える。	・身近な動植物に親しみ、興味を 持つ。 ・環境を自分の活動と結びつけて 捉える感覚が育つ中で、主体的 に自らの生活を作り出してい く。
身近なも のに関わ り感性が 育つ	・一人ひとりの発達の状況に即した 環境、身体を動かす機会が確保さ れ、保育者の援助を通して、身体 を動かそうとする意欲が育つ。 ・身の回りの物に親しみ、様々な物 に興味や関心を持つ。 ・感覚的刺激を十分に経験し、手指 の機能を働かそうとする。 ・わらべ歌やあやし遊びなど、保育 者の表情豊かな関わりの中で、子 どもが感性や感情を豊かにもち、 表現する力を身に付けていく。	言葉	・豊かな言葉の世界や大人の語りか けに心地よさ・嬉しさを感じる経 験を通して、大人の模倣をした り、自分のしてほしいことを簡単 な言葉で伝えたりしようとする。 ・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言 葉を繰り返したり、模倣したりし て楽しむ。	・保育者や友だちとの関わりが充 実していく中で、話すこと・聞 くことへの意欲が高まる。 ・象徴機能が発達し、イメージす る力が育つことで、単語数も増 加してくる。 ・応答的なやり取りを重ねる中で 自分のしたいこと、してほしい ことを言葉で伝えようとする。
		表現	・音楽やリズムに合わせた体の動き を楽しむ。 ・自分自身の身体を通じた経験を重 ね、諸感覚が発達していく。	・体験した出来事や簡単な絵本の 物語などを記憶し、それをイメ ージして再現したり、ごっこ遊 びへと広がったりする。 ・音楽やリズムに合わせて、保育 者や友だちと一緒に体を動かす ことを楽しむ。

	3 歳児	4 歳児	5 歳児
	【自分を高める】 分かりやすい言葉で指示された内容を理解して行動に移す。 【人とよりよく関わる】 友だちと一緒に遊びや活動を経験する事で一人遊びから集団遊びへ移行する。	【自分を高める】 イメージする力を蓄えて、相手に伝えたいことを楽しみながら言葉で表現する。 【人とよりよく関わる】 ルールのある遊びを通して、集団としての意識が芽生えてくる。	【自分を高める】 自分の気持ちを言葉にして自信を持って話す。何度も挑戦することで成功体験を積み重ね、自信をつける。 【人とよりよく関わる】 言葉による伝え合いや認め合いを通して、人との関わりを深め、仲間を大切に思い、手助けをする。
	3 歳児の後半に見られるようになる姿	4 歳児の後半に見られるようになる姿	5 歳児の後半に見られるようになる姿
健康な心と身体	・手洗い、うがいなど風邪の予防、健康生活に必要な習慣を身に付けていく。戸外で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。気温に応じて衣服の調節をする。【自分で決める力】	・給食で食べた物の3つの働き（栄養素）がわかる。【自分で決める力】 ・全身運動を十分に体験し、止まる、跳ぶなど身体のコントロールが出来るようになる。【自分を発揮する力】	・全身的な動きがなめらかになり、様々な動きを応用して活発に遊べる。【自分を発揮する力】 ・自ら手洗い、うがいなどの健康づくりに関心を持ち、見通しを持って生活リズムを整えようとする。【自分で決める力】
自立心	・食事、排泄、着脱など、基本的な生活習慣を身に付けていく。危ない場所や危険な遊びの話を聞き、自分達で気を付けるようになる。【自分で決める力】	・基本的な生活習慣の必要性に気づき、自分でしようとする。当番活動のやり方を把握し、進んで取り組んでいく。【自分で決める力】	・意欲を持って自主的に判断したり、計画したりして遊びや仕事を喜んでする。【自分を発揮する力】 ・当番活動や遊びの中で、自分の役割を認識し、責任をもつ。【やり抜く力】
協同性	・異年齢や同年齢の友だちと遊び、ごっこ遊びを楽しむ。【他者理解】【多様性の尊重】	・友だちと協力したり、助け合ったりすることで、遊びがより楽しくなることを知る。【他者理解】	・相手の意見や主張をよく聞き、自分の考えも伝え、折り合いをつけられるように話し合う。【多様性の尊重】
道徳性・規範意識の芽生え	・子どもが保育者との関わりの中で自分の意見とは異なる思いがあることを知る。基本的な生活習慣の形成を図るとともに、簡単なルールがわかり、参加できる。【自分で決める力】	・他の子どもとの関わりの中で表情や言動で他人の気持ちに気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動しようとする。ルールを知り、集団遊びを楽しみ、規範意識の芽生えを培う。【他者理解】	・友だちと楽しく生活する中で、友だちのよさに気づき認め合う。葛藤やつまずきの体験を重ね、相手の気持ちを尊重した行動を考えるようになる。【多様性の尊重】 ・遊びを考案し、友だちと相談してルールを決めて楽しむ。【他者理解】
社会生活との関わり	・異年齢の友だちと遊ぶ。【多様性の尊重】	・地域の方やボランティアの方と触れ合う。【多様性の尊重】	・小学校交流を行い、卒園の自覚と小学校への期待をもつようになる。【自分を発揮する力】
思考力の芽生え	・身近な環境に親しみ、自ら関わる中で、道具の使い方を知り、楽しみ使おうとする。【自分で決める力】	・生活の中で身近な環境に自ら関わり、発見を楽しむ。遊びを繰り返すことで、様々な変化に興味関心をもつ。【自分で決める力】	・生活の中で身近な環境に自ら関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、生活の中に取り入れようとする。【自分を発揮する力】
自然との関わり・生命尊重	・自然現象に興味を持ち、親しみや愛情を持つ。【自分で決める力】 ・園で栽培している植物の世話をする。【自分を発揮する力】	・冬の事象について知り、生き物の冬の過ごし方を知る。【自分で決める力】 ・クッキング活動で食材から調理までの過程を体験する。【自分を発揮する力】	・自然や社会事象、文化などに興味をもち、身近な環境に積極的に関わる力を培う。自然の循環についての知識を得て、自然を大切にしようとする気持ちが芽生える。【多様性の尊重】
数量や図形・標識や文字などへの興味・関心	・生活や遊びの中で様々な材料に触れ、大きさ、色や形、数量、文字に興味・関心をもつ。【自分で決める力】	・遊びの中で数量や図形等に興味を持つ。【自分で決める力】	・これまで経験した数量や形、色などの認識が確かなものになり、生活や遊びが広がる。【自分を発揮する力】
言葉による伝え合い	・日常生活に必要な言葉を覚え、話す。経験したことや自分の気持ちを保育者や友だちに伝える楽しさを味わう。【他者理解】	・遊びの中で要求を出し合いながら共通の目的を持ち、まとまりのある話し合いが保育者と一緒になれるようになる。【自分を発揮する力】	・絵本や物語に親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育者等や友だちと心を通わせる。自分の経験したこと、考えたことを適切な言葉で表現する。【自分を発揮する力】
豊かな感性と表現	・描きながら会話をし、イメージを膨らませ、様々な絵の表現方法を知る。音に合わせた表現活動ができる。【自分を発揮する力】	・友だちと声を合わせて一緒に歌ったり合奏したりする事を楽しむ【他者理解】絵本の登場人物の気持ちをイメージしたり、感想が言えたりする。【他者理解】	・自分の意図を的確に表現しようとし、友だちと意思を共有していく中で、協同製作の楽しさを知る。【他者理解】 ・より多様な表現ができる。【自分を発揮する力】

4 アプローチ・スタートカリキュラム

アプローチ・カリキュラム

ねらい：幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続するために、小学校入学当初に編成するカリキュラムであり、

時期	5歳 9・10・11・12月	5歳 1・2・3月
幼児・児童の発達過程	友だちと協力・工夫して遊びを進める中で自己を発揮していく時期	友だちと共通の目的を持ち自分たちで遊びや生活を展開していく時期 自分の成長を喜び、小学校生活に期待を持つ時期
育みたい資質・能力	【自分を高める】 ○ 様々な対象に積極的に働きかけ、自信をもって取り組む。 ○ 感じたことや考えたこと、イメージしたことを様々な方法で自分なりに表現する。 ○ 自分の目的をもち、繰り返したり工夫したりして取り組む。 【人とよりよく関わる】 ○ 友だちとの関わりを通して、自分のよさに気づき、それぞれが力を出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 身近なものに関わる中で、自分とは異なる考え方や感じ方があることに気づく。	【自分を高める】 ○ 自分ですべきことを考え、役割意識や責任感をもってやり遂げようとする。 ○ 意欲的に遊びや生活を進めていく中で、自分の力を発揮し、満足感や達成感を味わう。 ○ 初めてのことや苦手なことにも挑戦しようとし、最後まで諦めずにやり遂げようとする。 【人とよりよく関わる】 ○ 友だちと共通の目的をもち、互いの思いや考えを共有しながら一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○ 友だちと協力しながら目的に向かって取り組む中で、一人一人の大切さや友だちがいることの素晴らしさを感じる。
体験・ふさわしい	学級の中で自分の力を十分に発揮し、達成感を味わう体験	学級の中でつながりを深め、充実感を味わう体験
内容	健康な心と体	○ 健康や安全に必要なきまりや約束を、自分から進んで守ろうとする。【自分を発揮する力】 ○ 寒さに負けず、戸外で元気に遊び、自分達で遊びを進めていく充実感を味わう。【やり抜く力】
	自立心	○ 自分の目的に向かって最後まであきらめずに取り組む。【やり抜く力】 ○ 認められたり、褒められたりすることで、自信をもって行動できるようになる。【自分を発揮する力】
	協同性	○ 共通の目的に向けて、思いや考えを出し合いながら自分達で遊びを進めていく。【他者理解】
	道徳性・規範意識の芽生え	○ 友だちとの様々な体験の中でしてよいことや悪いことが分かり、自分の気持ちを調整しながら行動するようになる。【多様性の尊重】 ○ 異年齢児との関わりを通して、思いやりの気持ちをもつ。【多様性の尊重】
	社会生活との関わり	○ 祖父母や地域の方々との交流を通して様々な人との関わり方に気づいたり、感謝の気持ちをもったりする。【他者理解】 ○ 当番活動を通して、自分が役に立つ喜びを感じる。【自分を発揮する力】
	思考力の芽生え	○ 異年齢児との関わりを通して自分とは違う立場があることに気づき、相手の立場に合わせて自ら考えたり判断したりして行動する。【多様性の尊重】 ○ 目的に向けて自ら試行錯誤、友だちの考えに触れ、自分の考えをよりよいものにしようとする。【自分で決める力】
	自然との関わり・命の関わり	○ 飼育している小動物や栽培している植物の命を大切に、責任をもって大切にする。【自分を発揮する力】 ○ 自然の美しさや季節の移り変わりに関心をもち、見たり触れたりする。【自分を発揮する力】
	数量・図形	○ 身近にある文字や数量、位置、時間に関心をもち、生活や遊びに取り入れようとする。【自分で決める力】
	言葉による伝え合い	○ 自分の思いや考えを自分なりの言葉を使って相手や学級の友だちに伝えようとする。【他者理解】 ○ 人の話を最後まで聞こうとする。【他者理解】
	豊かな表現性	○ 様々な素材に触れ、特徴などを生かしながら、作って遊ぶ。【自分を発揮する力】 ○ 絵本や物語、経験したことから想像を膨らませ、動きや言葉で表現して遊ぶ。【自分を発揮する力】
		○ 自分の気持ちに折り合いをつけながら、友だちと一緒に、きまりを作ったり守ったりして遊ぶ。【他者理解】 ○ 異年齢児との関わりを通して心を通わせ、大きくなった喜びを感じる。【多様性の尊重】 ○ お世話になった人々に親しみや感謝の気持ちをもつ。【他者理解】 ○ 小学校見学や交流を行い、小学校への期待をもつ。【自分を発揮する力】 ○ 身近な自然や遊びに関わる中で、物事の性質や仕組みに気づき、考えたり工夫したりする。【自分で決める力】 ○ 友だちの考えを受け入れながら、より楽しくなる遊びを自分達で考えたり、作り上げようとしたりする。【多様性の尊重】 ○ 自然現象の変化に気づき、興味や関心をもつ。【自分を発揮する力】 ○ 飼育している小動物や、栽培している植物の世話に責任をもつ。【自分で決める力】 ○ 数量や図形、位置、時間に関心をもち、生活の中で使おうとする。【自分で決める力】 ○ 遊びや生活の中で、文字や言葉、数字を使ってやりとりすることを楽しむ。【自分を発揮する力】 ○ 自分の気持ちを言葉にして、人前で話そうとする。【自分を発揮する力】 ○ 人の話を割り込まないで最後まで聞こうとする。【他者理解】 ○ 友だちとの関わりの中で、言葉による伝え合いを喜ぶ。【自分を発揮する力】 ○ イメージを豊かにしながら、友だちと話し合い、目的に向けて取り組もうとする。【他者理解】 ○ 感じたことや考えたことをいろいろな方法で表現する喜びを味わう。【自分を発揮する力】

幼児期の教育で育まれた資質・能力を生かし、小学校以降の学びをより確かなものにしていくことが求められる。

第1学年 4月

教師や友だちなどに関わる中で入学した喜びを感じ、意欲的に学校生活を送ろうとする時期

生活科の単元＋教科(時間数)【時期】	町でめざす姿とのつながり	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とのつながり
生活科 ときどきわくわく 1ねんせい 「がっこうのことがしりたいな」生活科(5時間)【4月第1週】 みんなで教室や学校を見て回り、幼児期に使っていた施設との共通点を探しながら、学校の施設の位置や使い方に気づき、安心して生活をするができるようになる。 ○学校生活の過ごし方や教室の使い方を考える。 (学活『ゆめいっぱい1年生・音楽『どんなうたがあるかな』) ・朝(帰り)の準備の仕方、学習の準備の仕方、下校の仕方(荷物の片付け方、机の道具箱やロッカーの使い方、トイレの使い方、下校グループの帰り方、給食の仕方、そうじの仕方) ・1日の流れ(朝の会のやり方、始業開始と終わりのあいさつ、給食の準備、片付け、帰りの準備) ○名刺を作って自己紹介をしたり、グループで歌って遊んだりする。 (国語『よろしくね』音楽『かもつれっしゃ』) ○学校の中をみんなで歩いてめぐる。(体育『固定施設遊び』) ・体操服の着替え方・整列の仕方・遊具の使い方	自分を発揮する力 やり抜く力 他者理解 自分を発揮する力	健康な心と体 自立心 言葉による伝え合い 道徳性・規範意識の芽生え
「みんなとなかよくなりたいな」生活科(3時間)【4月第2週】 友だちや学校生活を支える人と関わり、友だちの存在やよさに気づき、安心して遊びや学習をしていこうとすることができるようにする。 ○学校の中を歩いたり、学校生活について話し合ったり、数当てゲームをしたりする。(算数『ときどきがっこう』、道徳『みんなでたのしく』) ○校庭で遊んだり、探検したりして、見つけたものや遊んだことを絵に描く。(図工) ○校庭を探検したり、生き物を探したりする。(生活) ○校庭で遊び、友だちと関わる。(体育『からだほぐしの運動遊び』、学活『なかよしペア交流』) ・6年生とのペア交流	自分で決める力 自分を発揮する力 他者理解 多様性の尊重	道徳性・規範意識の芽生え 数量や図形 標識や文字などへの関心・感覚 豊かな感性と表現 自然との関わり・生命尊重 思考力の芽生え

5 久原小学校

○久原小学校第1学年 生活科・特別活動（学校行事）で身に付けたい資質・能力

	身に付けたい力 道徳科内容項目	4月	5月	6月	7月	8月・9月
	単元名・行事名	どきどきわくわく 1年生 がっこうだいすき	運動会	ふれあいようち えん・ほいくえ ん①		いきものとなか よし
自分を高める	自分で決める 力		伸び伸びと練習に 取り組み、よいと 思うことを行うこ とができる。	幼稚園や保育園の 友だちと仲よくな るために進んで関 わろうとすること ができる。		
	誠実、自主、自律		A-1 善悪の判断、 自律、自由と責任 「かぼちゃのつる」			
	自分を発揮する 力	幼児期に使って いた施設との共通 点に気づき、小学 校生活を楽しく取 組もうとすること ができる。	練習を通して良 かったところを実 感し、さらに練習 に取り組もうとす ることができる。			
	向上心、個性の伸 長					
	やり抜く力	小学校生活の流れ に沿って、安心し て一日を過ごすこ とができる。	運動会で目指す目 標に向かって最後 までやり抜くこと ができる。	幼稚園や保育園の 友だちと仲よくな るために最後まで 関わることもでき る。		
	希望と勇気、克 己と強い意志					
人とよりよく関わる	他者意識	友だちや学校生活 を支える人と関わ ろうとすることが できる。	運動会を支えてく れる友だちや先生 方、地域の方や家 族への感謝の気持 ちをもち、伝える ことができる。			
	思いやり、感謝	B-7 感謝 「がっこうまでの みち」		B-9 友情、信頼 「みんなであのし く」		
	多様性の尊重	友だちの存在やよ さに気づき、安心 して遊びや学習を していこうとす ることができる。	練習を通して、友 だちのよいところ に気づくことが できる。	幼稚園、保育園の 友だちと関わるこ との楽しさに気づ くことができる。		友だちと一緒に捕 まえた虫を観察し たり、餌やすみか を用意したり協力 して大切に飼うこ とができる。
	集団生活の充 実、寛容		D-17 生命の尊さ 「みんなみんな いきている」			D-18 自然愛護 「うちのねこ」
久山スタイルは、1年間一貫して行う（学びの姿勢）						

(久原小学校第1学年)

10月	11月	12月	1月	2月	3月
たのしいあきいっぱい ふれあいうちえん・ほいくえん 本時	久原っ子まつり	むかしから つたわるあそびを たのしもう		もうすぐ 2ねんせい	お別れ集会
幼稚園や保育園の 友だちが楽しめる 遊びを決め、伸び伸び と活動することができる。	めあてに向かって、 伸び伸びと練習に 取り組み、よいと思 うことを行うこと ができる。	自分が挑戦したい 昔から伝わる遊び を選び、取り組むこ とができる。		新しい1年生の気 持ちは想像し、新し い1年生との関わり 方を決めること ができる。	
幼稚園や保育園の 友だちともっと仲 良くなったり、もっ と楽しく遊んだり するにはどうした らよいのかを考え、 取り組もうとする ことができる。		昔から伝わる遊び に何度も挑戦する 喜びや上手になっ ていく嬉しさを実 感することができる。		入学した頃の自分 と今の自分を比較 して、自分のできる ようになったこと を探したり、実際に やってみたりする ことができる。	
				A-4 個性の伸長 「ほくにもあるかな」	
	久原っ子まつりで 目指す目標に向か って最後まで練習 に取り組むことが できる。			新しい1年生に喜 んでもらえるよう に、最後まで学校の ことを分かりやす く伝えることがで きる。	お世話になった6 年生に感謝の気持 ちを伝えるために、 最後まで練習に取 り組むことができ る。
	A-5 希望と勇気、努 力と強い意志 「一にち十ぶん」				
幼い人の立場に立 って、活動を考え たり、親切にしたり と優しく接すること ができる。	自分を支えてくれ ている地域の方や 家族に伝わるよう に、発表練習をし ようとするこ とができる。	遊びを教わった人 や竹の道具を作っ て下さった方に感 謝の気持ちを伝え ることができる。			6年生への感謝の 言葉を考えたり、プ レゼントを作った りすることを通し て、気持ちを伝え ることができる。
B-6 親切、思いやり 「はしのうえの おおかみ」		B-7 感謝 「おとしよりと いっしょに」			B-7 感謝 「がっこうたんけ ん」
幼稚園、保育園の友 だちに合せて、行 動したり、親切な声 かけをしたりする ことができる。	練習を通して、友 だちのよいところ に気づくことが できる。			1年間を振り返り、 自分や友だちの成 長、よさに気づく ことができる。	
	C-14 よりよい学校生 活、集団生活の充 実 「すてきなことば 『あふたあ ゆう』」			C-14 よりよい学校生 活、集団生活の充 実 「もうすぐ2年生」	

久山スタイルは、1年間一貫して行う（学びの姿勢）

1 主題 仲間を信じて 内容項目Bー(11) 相互理解、寛容 教材「まかせてみようよ」

2 指導の構想

【何ができるようになるか】(単元の目標)

「自分を高める」

- ・様々な活動に取り組む中で、状況から自分にできることを考え、積極的に行動することができる。(自分を発揮する力)
- ・宿泊訓練の目標達成に向けて、友だちと励まし合いながら最後までくじけずにやり遂げることができる。(自分を発揮する力)

「人とよりよく関わる」

- ・学年全体で活動することを通して、互いの考えを尊重しながら活動することが、よりよい集団生活へとつながることを実感できる。(他者意識)

【何を学ぶか】(主題の価値)

本主題は、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる考えや立場を認め、尊重していこうとする心情を育てることをねらいとしている。学級や学年には、自分と異なる考えをもつ友だちもおり、意見が対立することもある。自分とは異なる考えであっても、謙虚な心を持ち、相手の話に耳を傾けることによって、納得できる部分が見つかるものである。相手への理解を深めることが、ともに支え合う仲間に向けて大きく前進することにつながる。

宿泊訓練と関連付けながら、相手の考えや立場を尊重し、互いに支え合い、高め合うことの素晴らしさを感じさせたい。

【本教材を通して】

本教材は、謙虚に相手の話に耳を傾け、尊重していく過程が理解できるとともに、実践への意欲を高める契機とすることができる。

【総合的な学習の時間との関連】

「宿泊訓練を成功させよう」

【どのようにして学ぶか】

総合の単元の流れ【単元計画(14時間)】

(1) 目標をもつ(2時間)【本時含む】

まず、宿泊訓練の目的や大まかな活動計画を知り、学習後のゴールイメージをもったり、宿泊訓練のテーマを設定したりする。そして、テーマやゴール像に向けて自分にとっての探究課題をもつ。

(2) 実践する(10時間)

次に、課題に応じて自分の役割を選択し、役割ごとに施設や体験活動についての調査や、しおり作成など宿泊訓練に向けた準備を行う。そして、集団での宿泊活動を通して、自分にできる役割を積極的に果たしたり、仲間と折り合いをつけながら協働したりする。

(3) 振り返る(2時間)

最後に、テーマやゴール像からこれまでの学習を振り返り、学んだことや自分の成長を書きまとめる。また、それらをもとに、宿泊訓練の意義や価値などについてポスターに書きまとめて、来年宿泊訓練に行く4年生に発信する。

【児童の実態】

本学級の児童は、総合的な学習の時間「米米大作戦」の学習を通して、同じ目標に向かって自分と異なった考えをもつ仲間と互いにそれぞれの役割を果たす経験をしている。しかし、自分と異なる意見や立場を受け入れようとする考えまでには至っていない。これは、誰しも自己本位に陥りやすいという弱さをもっており、自分自身が成長の途上にあるが故に至らなさもあることを自覚していないからである。そこで自分と異なる考えをもつ仲間と共に高め合う関係を求めるようになるこの時期に、相手の考えや立場を尊重し、互いに支え合い、高め合うことの素晴らしさに気づかせたい。

3 本時

(1) 目 標

- 自分と異なる考えをよく聞き仲間の関係を深めることがよりよい集団づくりには大切であることに気づき、広い心で自分と異なる考えや立場を認め、尊重していこうとする態度を育てる。

(2) 準 備

- ①教材の流れ図 ②学習プリント

(3) 展 開

過程	学習活動・児童の反応	指導の手立て（○）と評価（◇）
導入 10分	1 仲間と協働することについて話し合い、本時のめあてをつかむ。 ・班遊びをする時に途中で遊びに飽きたという友だちと言ひ合いになったな。 ・話し合いをして意見がまとまらずに困ったことがあったな。	○ Googleform による事前アンケートと、結果をテキストマイニングで提示することで、仲間と協働した経験を想起できるようにする。 ○ 宿泊訓練を想起させることで、本時学習の意義や価値をつかませる。
	(めあて) 互いの考えが異なる時に、大切な心について考えよう。	
展開 25分	2 教材「まかせてみようよ」をもとに、「ぼく」の行為について話し合う。 (1) 「ぼく」の行為の素晴らしいところについて話し合う。 ・石井さんにまかせようとしたところ ・石井さんのこれまでの努力を知っていたところ ・石井さんに意見を求めたところ  (2) 「ぼく」の行為の原因について話し合う。 ・自分や周りの友だちの考えを絶対に正しいとは思わないようにしていたから ・色んな人の意見を聞いてみんなが納得できるようにしたいという思いがあったから  (3) 「ぼく」の行為から取り入れていきたいことについて話し合う。 ・友だちの頑張りに気づくようにしたり、友だちの意見を大事にしたりすると、グループ活動が楽しくなると思う。	○ 道徳的価値が発見されるように、事前に教材を読ませておく。また、資料の流れ図を掲示しておく。 ○ それぞれの行為の特長毎に分類・整理して板書するようにする。 ○ 「このような行為ができたのは、ぼくにどんな思いがあったからですか」と問い、自分の経験と重ねて考えさせることで、ぼくの行為の裏にある心情について迫ることができるようにする。 ○ 「そのようなことをするとグループ活動はどうなりますか。」と問うことで、相手を尊重することがよりよい集団づくりのために大切だと気づくことができるようにする。
終末 10分	3 本時学習を振り返り、学習プリントに書く。 ・宿泊訓練でも、みんなの意見をよく聞いて話し合って解決したい。 ・相手のことを決めつけずに、しっかり話を聞いて話し合っていきたい。	○ 道徳的実践意欲を向上させるために、昨年の宿泊訓練の様子を紹介する。 ◇ 宿泊訓練などの学習や生活場面とつなげて、自分のこれまでの行動やこれからの行動について振り返っているか。 (学習プリント分析)

1 幼・保・小交流

(1) 単元名 ふれあいようちえん・ほいくえん (久原小学校 第1学年生活科)

たのしいあきいっぱい (山田小学校 第1学年生活科)

(2) 単元の目標 (何ができるようになるか)

【自分を高める】

「ふれあいようちえん・ほいくえん」や「たのしいあきいっぱい」の活動の中で、幼稚園生や保育園生ともしっかり仲良くなったり、もっと楽しく遊んだりするにはどうしたらいいのかを考えて交流し、活動のよさや大切さに気づくことができるようにする。

【人とよりよく関わる】

幼稚園生や保育園生と仲良く楽しく交流するために、これまで学んだこと(遊び方・秋のおもちゃ作り)を生かして、相手の立場に立って活動を考えたり、相手に親切にするなど適切に接したりすることができるようにする。

(3) 本実践を行うに当たって

①教材の価値 (何を学ぶか、実施するためには何が必要か)

久原小学校では、年間を通じて「ふれあいようちえん・ほいくえん」という単元で、山田小学校では、「たのしいあきいっぱい」の単元で幼保小交流を実践している。本町には、町立の幼稚園、保育園が1園ずつあり、園児の大半は久原小、山田小のいずれかに入学する。よって、この交流会は、入学予定の園児にとっても、小学校へ出向いての交流は大変意義深いと考える。また、小学校生活科における価値を次のように考える。

- ・自分たちが考えたり作ったりした遊びを通して、幼稚園生や保育園生とどのように関わったらよいかを考えることができる。
- ・自分の思いや考えを表現したり生活上必要な習慣や技能を身に付けたりすることができる。
- ・自分のよさや交流の成果に気づき、意欲や自信をもって次の活動につなげることができる。

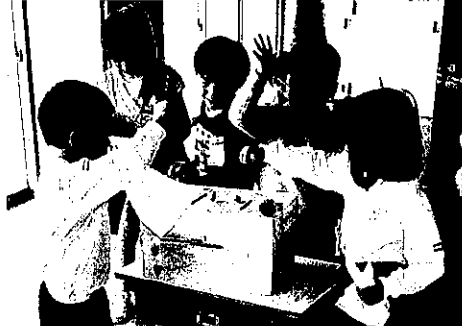
②道徳科(生活・総合的な学習の時間)との関連

幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深めることができるようにするために、「おとしよりといっしょに」「はしのうえのおおかみ」(B-7 親切、思いやり)を関連させる。幼稚園生、保育園生の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、そのために、どんな遊びや遊び方がいいかを考えることで、実生活に生かすことができると考える。

③授業づくりのステップ

Plan	1ヶ月前	保育園幼稚園との打ち合わせ	・学習のねらい、内容の共有 ・交流日時の調整
Do	1ヶ月前	単元構想着手	・学習目標、内容、方法の設定 ・単元計画作成
	3週間前	授業プランの作成と単元構想案の練り直し	・遊びの選定、グループ分け ・試しの遊び、遊びの作り直し ・当日の流れと交流会のリハーサル
Check	当日	(メイン) 授業	・グループに分かれて幼稚園生と保育園生と遊びの交流を行う。
	授業終了直後	授業の反省	・活動を振り返り、交流のよさと反省を出し合い、次の活動につなげる。
Action	授業後	授業改善	・学習目標、内容、方法の見直し ・交流方法の見直し

(4) 学習の実際 (何を学ぶか・どのように学ぶか)

	久原小学校	山田小学校
目標をもつ	○「ふれあいようちえん・ほいくえん」で、幼稚園生や保育園生が楽しめる遊びを考えて、交流しよう。 「『つりゲーム』は釣れるかな。」と、ときどきして喜んでくれると思うな。 	○「あきのおもちゃをつくろう」で作ったおもちゃで、幼稚園生、保育園生と交流をして、仲良くなろう。 私たちが見つけた秋の物で、おもちゃ作りをして、一緒に遊びたいな。 
実践する	(1) 事前準備・交流会リハーサル ・それぞれのグループで、交流会で何の遊びをするかを決め、準備をする。 (「秋見つけ」で見つけた物を使ったおもちゃ) 例 まとあて まつぼっくりけん玉 わなげ まつぼっくり魚つり ボウリング どんぐりすくい ・交流会リハーサルで、1年生役、幼稚園・保育園生役に分かれて遊び、それぞれの遊びの見直しや作り直しを行う。 (2) 「ふれあいようちえん・ほいくえん」交流会 (本番) ※給食交流も含む。  幼稚園生、保育園生と遊んでいるうちに名前を覚えて仲良くなれたよ。 	(1) 事前準備・交流会リハーサル ・「秋見つけ」で見つけた物で、おもちゃを作り、幼稚園・保育園生と遊ぶ計画を立てる。 例 どんぐりごま まとあて 魚つり ボウリング どんぐり転がし めいろ ・遊びのリハーサルで、1年生役、幼稚園・保育園生役に分かれて遊び、それぞれの遊びの見直しや作り直しを行う。 (2) 幼稚園、保育園生と「秋のおもちゃ」で遊んで交流する。(本番) ※給食交流は5年児童と保・幼稚園生  幼稚園生・保育園生が喜んでくれてうれしかったな。また交流したいな。 
振り返る	○「ふれあいようちえん・ほいくえん」の交流会を振り返り、次の活動へつなげる。 ・活動のよさと反省点の振り返り ・活動の前と後の自分の成長 ・交流で仲を深められたか	○「たのしいあきいっぱい」の学習や、交流会を振り返り、次の活動へつなげる。 ・活動のよさと反省点の振り返り ・活動の前と後の自分の成長 ・交流で仲を深められたか

(5) 成果 (何が身に付いたか)

〔自分を高める〕

幼稚園生や保育園生が楽しめるように、どんな遊びをどのようにしたらよいかを考えたり相手に合わせてルールを変えたりすることを通して自分のがんばりを感じることができた。

〔人とよりよく関わる〕

遊びの交流会を通して、相手に合わせて行動したり親切な声かけをしたりするなど、相手のことを考えて行動することができた。

2 小・中交流（まると体験）

（１）「小学生中学校まると体験」

（２）取組の目標（何ができるようになるか）

〔自分を高める〕

小学校では、「中学校でも自分の個性を発揮できる場面がありそうだ」「中学校でも粘り強く取り組むことができそうだ」など、自らの力を発揮し、やり抜いている将来の自身の姿を見通すことができるようになることを目標とする。中学校では、三年生を中心に活動し、過ごしやすい中学校生活を送ってもらうためにはどうすべきかを考えさせることで、主体的に考え、実行できるようになることを目標とする。（自分で決める力）

〔人とよりよく関わる〕

小学校では、他小学校、中学校生徒・職員と実際にふれあう場で学習活動を体験することで、中学校生活で知っておくべき情報をあらかじめ獲得し、行動する準備ができることを目標とする。中学校では、３年生を中心に活動し小学生に伝えておくべきことや効果的な伝え方を考えさせることで、相手意識をもった行動ができるようになることを目標とする。（多様性の尊重）

（３）本実践を行うに当たって

①この取組の実施理由、活動の価値（何を学ぶか）

久原小学校、山田小学校の６年生が久山中学校での学習活動、部活動、清掃活動などを実際に体験することで、「中１ギャップ」を未然に防ぎ、学ぶ意欲を喚起させ、自尊感情を向上させるために行う。さらに、校舎配置や教室環境、授業時間、教科担任制などの学習環境に慣れさせるために実施する。

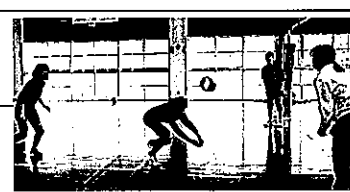
②道徳科（生活・総合的な学習の時間）との関連

- ・生徒会役員を中心とした歓迎行事（４月 新入生オリエンテーションとの関連）
- ・歓迎行事において合唱曲「群青」の披露（１０月 合唱コンクール〔文化発表会〕の全校合唱との関連）

③実施までのステップ

Plan	９月後半	小中学校教務担当主任 研修会で提案	中学校から実施要項の提案 ・学級担当分け 教室配置 ・時間割（実施授業 担当教諭） ・部活動体験
Do	１０月前半	授業担当者、授業内容決定	中学校から小学校へ報告 確認後、小学校に授業内容案内配布
	１０月後半	配慮を要する生徒及び 授業内容の詳細、部活動 の活動内容の連絡	配慮を要する生徒を鑑みた実施科目、 授業内容の決定 部活動は第１希望を中心に決定
Check	１週間前	授業内容の最終確認	持参物の最終確認
	１１月当日	体験当日	登校時の危険箇所の確認
Action	体験後	各小学校で振り返り	各小学校での振り返りを集約 中学校との共有

(4) 活動の実際 (何を学ぶか・どのようにして学ぶか)

	1 F P C教室 山田小 6 - 1	1 F 図書室 山田小 6 - 2	3 F T T教室 久原小 6 - 1	2 F T T教室 久原小 6 - 2
朝	危険個所に教師が立ち、登校指導を行う。			
	8 : 1 5 中学校登校 8 : 2 5 朝の会			
開会行事 8:30～8:45	開会行事（久山会館 2 F 児童代表挨拶 久原小学校） 開会行事後 生徒会が各教室へ引率			
1 校時 8:55～9:45	社会	理科	英語	社会
2 校時 9:55～10:45	数学	英語	数学	国語
	特別支援学級体験【いずみ 1 いずみ 2】			
3 校時 10:55～11:45	選択授業（美術、音楽、技術、家庭の 4 教科から選択）			
4 校時 11:55～12:45	保健体育（男女別）（男子：サッカー、女子：体づくり運動）			
昼食 12:50～13:10	各教室で昼食（ランチサービス体験） ランチサービスの台を準備する必要あり			
昼休み 13:10～13:40	各教室で休憩（校内見学を行ってもよい）			
5 校時 13:45～14:35	3 年生による歓迎行事（全校合唱等） 【生徒会担当】生徒会役員が迎えに行く			
帰りの会 14:45～15:10	黙働清掃見学（中学生は黙働清掃 14:45～14:55）			
	帰りの会（小学校の学級ごとに実施）・部活動体験準備（着替え 男子は各教室 女子は理科室）			
放課後 15:30～16:30	部活動体験（15:30～16:30） ※部活動ごとに解散・下校			
下校 16:30～16:50	危険個所に教師が立ち、下校指導を行う。			

(5) 成果と課題 (何が身に付いたか)

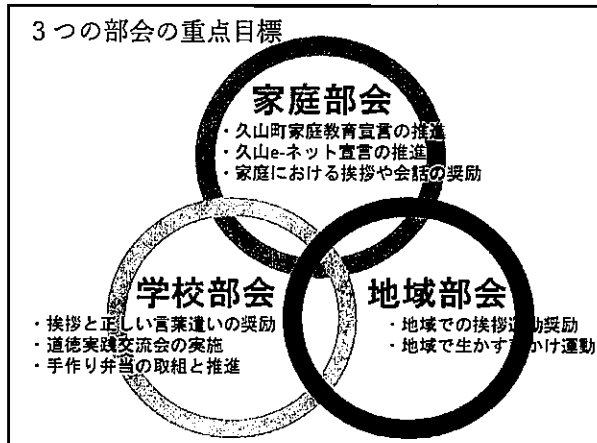
〔自分を高める〕

- 歓迎行事における全校合唱曲「群青」を披露では、その完成度の高さから自分の役割を全うし、粘り強く取り組んだ成果を示すことができた。
- 主体的に取り組を進めたのは生徒会役員が中心であった。3 年生全生徒、できれば全校生徒で取り組めるような歓迎行事にすることが望まれる。

〔人とよりよく関わる〕

- 歓迎行事や体験授業だけでなく、休み時間中の交流、部活動体験などを含めることで、1 日を通して中学校生活を実体験させることができた。
- 清掃時間は掃除の見学のみであった。黙働清掃を実体験させることで、中学校入学前に、話さず懸命に掃除する意義を考えさせることができるのではないかと考える。

3 道徳推進委員会



昭和52年より続く推進委員会です。この会の目的は、家庭・地域・学校の三者が相互協力し、本町民の道徳への理解と関心を高めることにあります。

組織は、委員長を中心に成り立っており(右頁)、「家庭部会」「地域部会」「学校部会」の3つの部会があります。それぞれにその年の重点目標を決めて、目標に向けて推進運動を行っています。推進状況は年間3回行われる道徳推進委員会の会議で確認したり見直したりしています。

←R2道徳推進委員会各部会の目標(一部)

(1) あいさつ運動

毎月20日を道徳推進の日として、幼・小・中の登校・登園時間に合わせて学校内や通学路で挨拶の啓発運動を行っています。この日は、道徳推進委員、地域の方、PTA、教職員、児童生徒など多くの人が挨拶を行います。

学校内では、小学校では運営委員会、中学校では生徒会が中心となって、挨拶を通じて「人によりよく関わる」態度を身に付けるようにしています。学校外では、道徳推進委員やPTAが中心となって、当番制で挨拶運動を展開しています。

この取組も含め、挨拶の様子について、学校内外で評価し、更なる啓発を進めています。

幼稚園・保育園



けやきの森幼稚園
(先生と関わり、安心感を生んでいます。)

ひさやま保育園
(挨拶して検温が日課です。)



(2) 弁当の日

20日の道徳の日に合わせて、弁当の日を設けています。長く続けている取組なので、学校の年間行事予定や保護者の方に浸透した取組です。

低学年は、おかずを一品つくる、高学年からは、全てにチャレンジするなど発達に合わせて弁当作りを行い、お家の人と関わります。

自分でつくる喜びを味わうだけでなく、家庭での親子のふれあいの場、日頃から家でお弁当を作ってくれるお家の方への感謝など道徳教育に大変効果があると考えます。

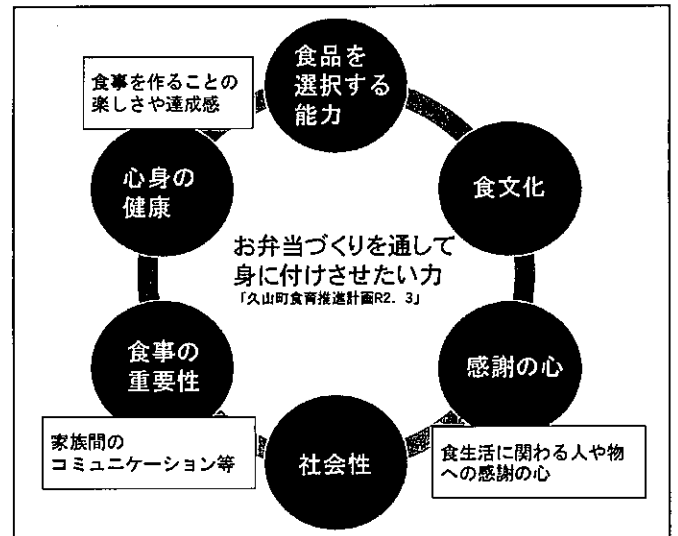
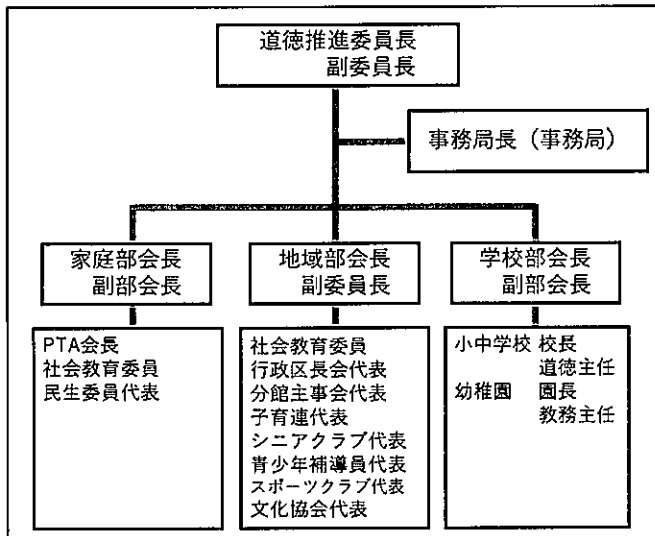
幼稚園・保育園



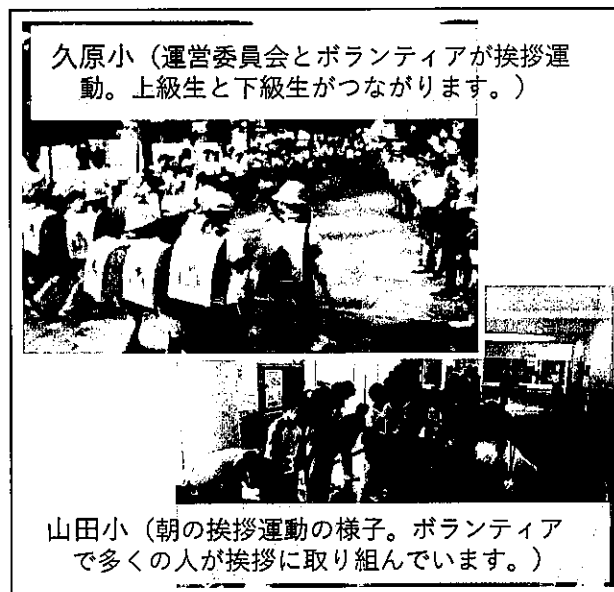
けやきの森幼稚園
(大好きな人との関わりで社会性を育みます。)



ひさやま保育園
(お弁当を通じて人との関わりを深めます。)



小学校



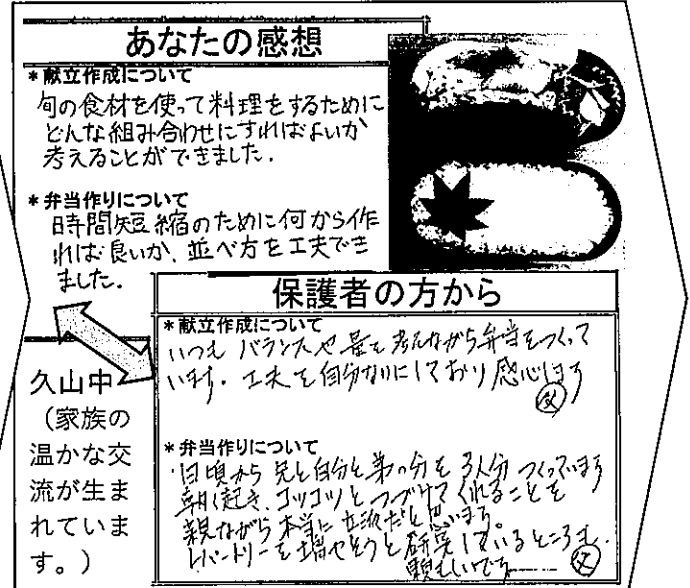
中学校



小学校



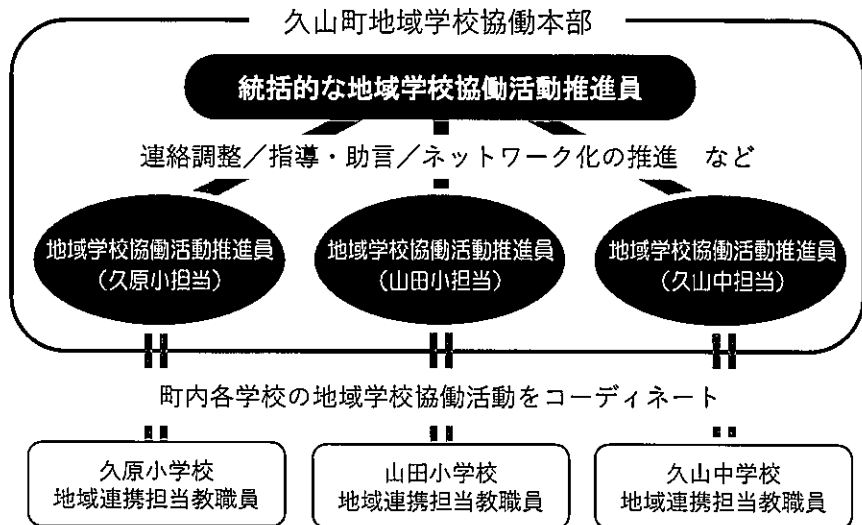
中学校



4 地域学校協働本部

久山町では、平成 30 年に地域学校協働本部を設置し、未来を担う子どもたちを育てるため、地域と学校の連携・協働体制を整備し、地域学校協働活動の推進を行っています。

各学校の教育方針や教育内容の把握、学校とボランティアの連絡調整、活動の企画立案を行っています。



(1) 活動内容

① 学校支援活動

基礎学力の定着に加え、地域の方に支えられていることを子どもに実感させることができるため、他者理解につながります。



【〇付けボランティアの様子】

② 児童・生徒の地域行事等への参画

地域の人と関わることで郷土愛が芽生え、活動を通じて自分を発揮することができます。



【地域清掃活動に参加する生徒の様子】

③ 放課後の学習・体験活動

アンビシャス広場において、町内老人クラブに見守りを依頼し、子どもたちは体験活動を通じて地域の方と積極的に関わり思いやる心を育みます。



【地域の方と関わる児童の様子】

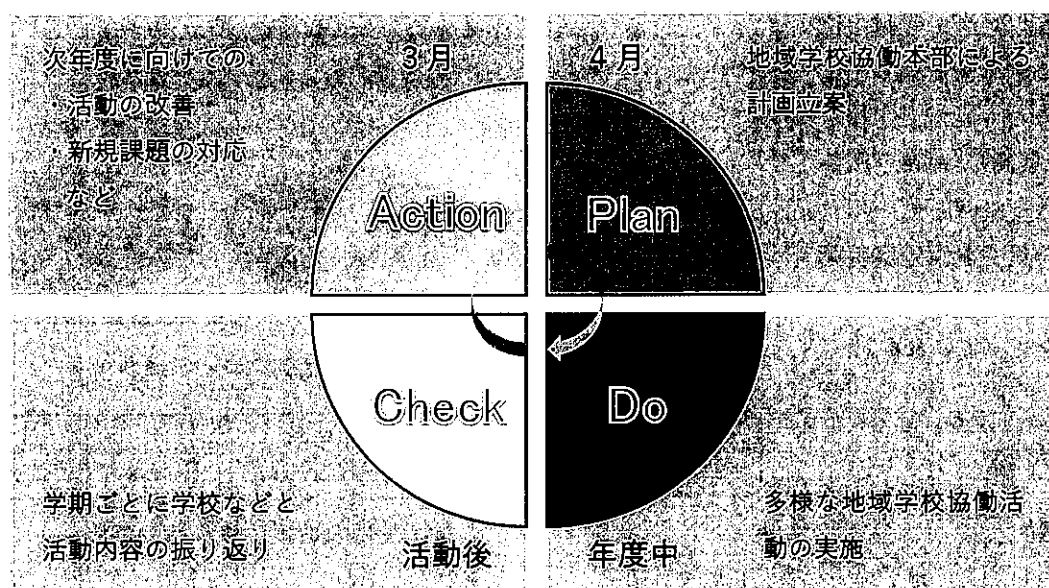
④ 伝統文化の継承

久山町の歴史とともに歩んできた久山音頭を通じて、郷土愛や町民の一体感を高めることができます。



【行事などで町民と一緒に踊る生徒の様子】

(2) 年間計画



(3) 実施までの流れ

地域学校協働本部では、以下の①～④までの過程を地域・学校と連携・協働しながら実施しています。

① 学校との打合せ

先生方に、どの活動でボランティアに協力してほしいか、いつ頃行うか等のニーズを調査します。

学校からの要請を受け、学習内容のねらいや必要な人数などを確認します。



【打合せの様子】

② 連絡・調整

地域学校協働活動推進員が、活動に協力して頂ける方に直接依頼し、または関係団体と連携し募集を行い、調整・打合せを行います。

③ 活動の実施

活動の前に、学習内容のねらいなどを打合せし、活動を実施します。



【ミシン学習補助の様子】

④ 振り返り・改善

活動終了後に教師・ボランティア双方の気づきをコーディネーターが両者に伝えることで、次の活動にもつながりやすくなります。また、参加していただいたボランティアに対して、子どもたちがお礼の手紙を送り、ボランティアの方々の活動意欲にもつながっています。

5 学習に向かう態度、心の醸成

本町では、「話の聞き方」「姿勢の保持」等、学習に向かう基本的な態度を大切に、粘り強く、また人とよりよく関わりながら教育活動を展開しています。また、読書推進を通して、言葉を学び、多様な文化の理解、自分の生き方を考える取組を行っています。この活動は学校司書、司書教諭等が中心となり、「久山町子ども読書活動推進計画」をもとに活動しています。

異校種で統一して取り組むには、多くの教職員の願いを形にする場を設定して実現するボトムアップ型と、推進委員が中心となって全教職員で共有する型があります。

(1) 教職員全員研修から生まれた「久山スタイル」

久山町内の学校では、「久山スタイル」という言葉がよく聞こえてきます。教職員が子どもに「久山スタイル」と伝え、背筋がすっと伸びたり、発言している人の方をみんなが向いたりして、子どもによく浸透しています。聞き方、発言の仕方、背筋など、学びに向かう姿勢を整えることで、学力のみならず、自分と向き合う態度や他者を思いやる心が育まれます。

この言葉は、幼・小・中合同の教職員研修の中から生まれた言葉で、学習に向かう態度をどの校種でも揃えようという願いが形になったものです。

幼稚園・保育



けやきの森幼稚園
(温かな人間関係の中で「聞く」心地よさと大切さを味わいます。)



ひさやま保育園
(聞くことが学びの基本。就学前から根づかせます。)

(2) 読書の専門家が中心となって充実を図る「読書活動」

久山町内の学校では、朝読書やビブリオバトル、読み聞かせ等の読書活動を通して、多様な人と関わり、他者と共に豊かに生きていく道徳心を養うようにしています。

この読書活動は、「第2次久山町子ども読書活動推進計画」をもとに、学校司書が学校司書部会を定期的に開き、現状の確認や具体的方策を話し合うことで活動を充実させています。また、久山町民図書館協議会を年に3回開き、社会教育、学校教育、読書ボランティア、行政が現状や今後の見通しを話し合い、読書活動の充実を図っています。

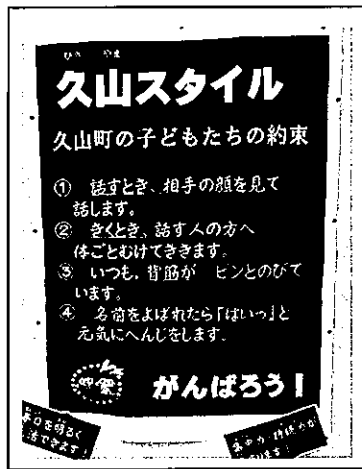
幼稚園・保育



けやきの森幼稚園
(安心感のもと、様々な物語の世界を想像して、豊かな感情へ。)



ひさやま保育園
(小さな頃から大人の温かな声、温かな世界に触れます。)



左は幼稚園、右は小中学校に掲示されている久山スタイルの言葉です。12年間、姿勢や聞き方をつないでいます。

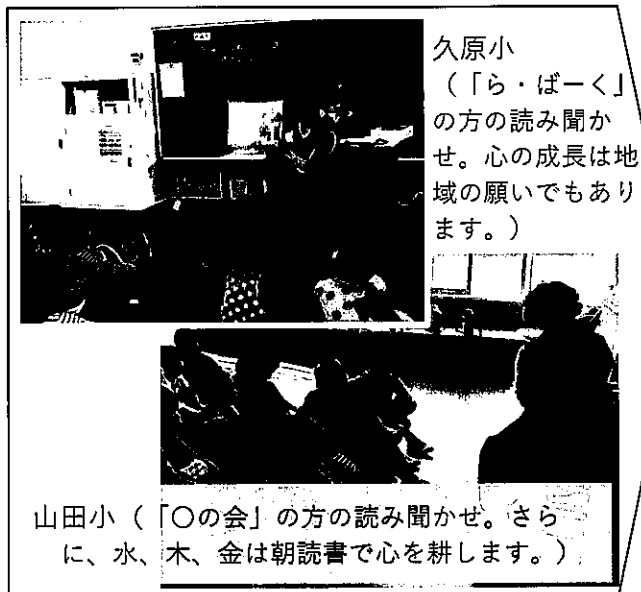
小学校



中学校



小学校



中学校

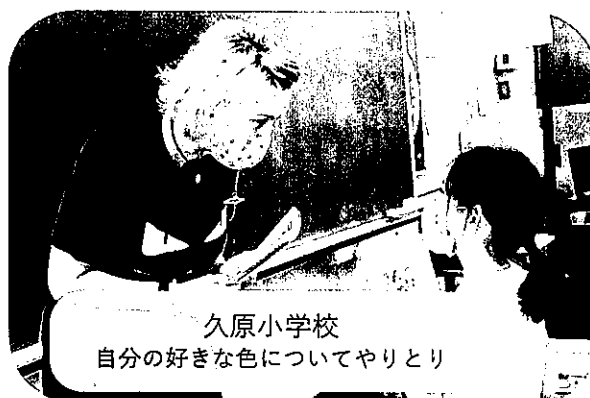


6 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力（グローバル人材を育む）

本町では、子どもたちが異なる文化を理解し多様な価値観を受け入れるグローバルな視野をもつとともに、ふるさと久山を愛する豊かな心を育むことを目的として、英語や海外の文化、多様な価値観などに「触れる」「学ぶ」「親しむ」事業「みらいパスポート事業」を行っています。

幼・保・小・中の12年間、英語の言語や海外の文化に触れることで多様性を尊重する心を育んでいます。

（1）幼・保・小・中で継続して英語に「触れる」「学ぶ」「親しむ」



幼稚園、保育園へは、週に1度ALTが園を訪問し、英語に触れ、親しむ活動を行っています。小学校1、2年生は、ショートの時間を使って、英語に触れ、親しむ活動をしています。

小学校3年生以降は、ALTを交えながら外国語（活動）を進めています。このように、12年間切れ目のない学びを展開し、英語や外国の文化に触れ、学び、親しんでいます。

12年間のつながりのある英語教育のために、おもに3つのことに取り組んでいます。



①外国語担当者会

町内の小中学校の外国語担当者が授業を公開し、授業後に授業の振り返りやテーマに基づいた協議を行っています。協議の内容としては、小学校と中学校の共通点・相違点、クラスルームイングリッシュの活用についてなどです。継続的に小中学校で見合うことで、授業内容や授業改善への意識向上につながりが生まれます。

小中担当者の協議内容 (過去の例)

- ☐ 小学校と中学校の共通点、相違点
- ☐ クラスルームイングリッシュ
- ☐ 学習指導要領の目標、内容
- ☐ A L T の活用方法について
- ☐ 外国語の評価

②A L T 相互参観

A L T 同士が授業アシスタントの様子を見合うことで、子どもの励まし方や授業内容を共有します。授業後に、A L T で協議を行い、よりよいアシスタントとしての資質・能力の向上、小中学校の学習内容のつながりの確認を行っています。

③A L T のミーティング

A L T は、毎週月曜日に教育委員会に来庁し、学習内容や進度、A L T としての役割（異文化を伝える等）、子どもの英語や異文化への関心の様子など、幼・保・小・中の縦や横のつながりを確認し合っています。



A L T がお互いに授業を見合う



A L T のミーティングの様子

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外国語担当者研修会			●授業交流1				●授業交流2			●授業交流3		
A L T 授業交流	 毎週月曜日に教育委員会にてミーティング											
			●授業交流1				●授業交流2	●授業交流3				

※令和2年度の授業交流計画は未定です。

(2) 本町の外国語教育の取組 (やり抜く力や多様性を学ぶ)



①高校生・大学生海外留学

「多様性を尊重し、挑戦することが大切です」と小学生に語るののは、海外に語学留学に行った大学生です(写真左)。2年間の海外生活体験を小学生に話していただきました。事前の打合せで、学校が町で目ざす姿(本研究)を伝えることで、当日話す内容を精選していただきました。

②語学体験

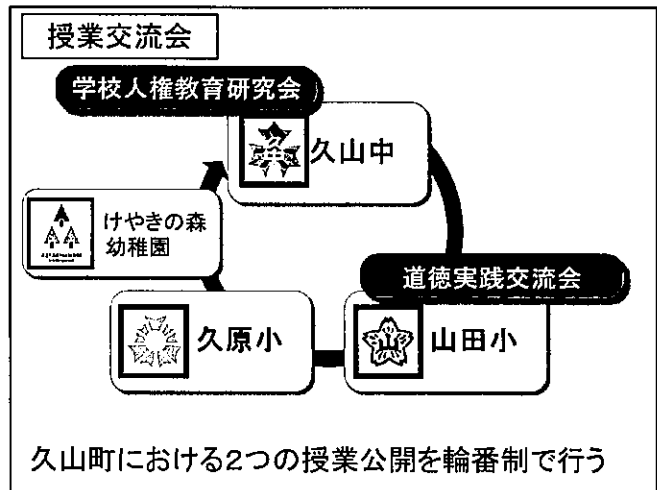
「学んだことを使って、何とか自分の考えを伝えようと思いました。」と修学旅行先の英語体験を振り返り、中学生がまとめを書きました。学校の英語で学んだことを体験の中で実践し、自分の学びについて振り返る機会を設けることで、生徒が達成感を味わうようにしています。(写真右は、「東京グローバルゲートウェイ」での体験の様子)

7 異校種間をつなぐ教職員研修

本町では、教職員全員研修として、3つの研修を行っています。そのうちの2つの研修は、「豊かな心」の育成という町の振興基本計画に基づいて行われており、授業交流会を通して道徳教育と人権教育について学び合っています。幼・小・中で授業実践交流会を参観し、学び合う場としています。

授業は、小学校2校、中学校1校の3校で輪番制で行い、学校人権教育研究会と道徳実践交流会の2つの授業を交代で行います。過去には、幼稚園が実践を行う年もありました。

1日の流れとしては、授業を参観後、全体で協議会等を行ったり分科会という形で少人数で協議したりと形態は様々です。先にも述べましたが「久山スタイル」という共通の学びの姿勢は、学力保障と友だちへの思いやりの視点でこの研修会から生まれました。



授業公開の輪番制イメージ図

(1) 道徳教育実践交流会

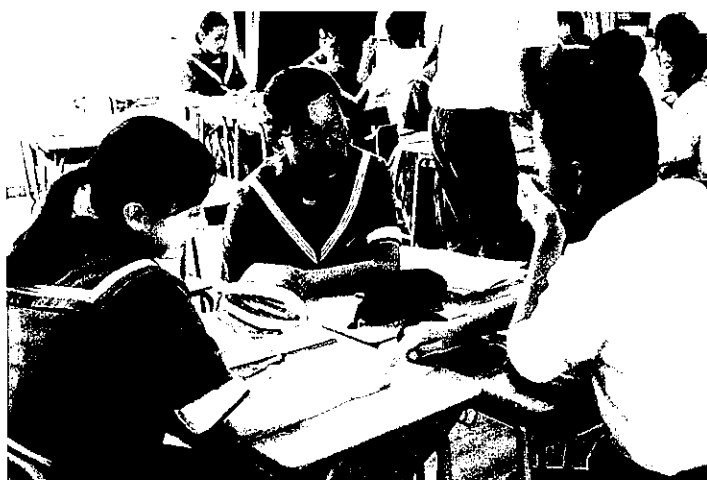


道徳推進委員会「学校部会」の一環として行われています。昭和52年から始まっており、毎年研究と実践に取り組んでいます。

その年に授業公開を行う学校は、自校の教育目標や実態、国の動向等を踏まえながら研究、授業を行います。このような長年の取組により、「道徳の町」としての成果を感じることができます。

左の写真は、令和元年度の山田小学校の授業交流会の様子です。この年は本研究と重ねながら他町も含め多くの先生方に参観していただきました。

(2) 人権教育実践交流会



一人一人が個人として尊重され、その個性や能力を十分に発揮できるような、差別と偏見のない社会づくりを基本方針として研究を進めています。

その年に授業公開を行う学校は、年度の重点目標をもとに人権尊重の精神を育むような授業づくりを行います。互いのよさや違いを認め合う学校づくりは、「人とよりよく関わる」という本研究目標の1つそのものであり、その上で自己発揮するという「自分を高める」にもつながります。

左の写真は、令和元年度の久山中学校の授業交流会の様子です。研究で目指す姿の1つが表れています。

(3) 夏季全員研修会



全体会の様子

1年に1度、夏季休業中に、幼・小・中で全員研修を行っています。(令和元、3年度は保育園も参加しています。)

研修会を開く際にはカリキュラム・マネジメントの6つの枠組を活用して、以下のように研修の構想に置き換えることができます。

- 1 研修で何を身に付けるか(研修の目的)
- 2 何を研修するか(研修の内容)
- 3 どのように研修を進めるか(研修の方法)
- 4 研修の充実をどのように図るか(グループ割、協議の工夫)
- 5 研修で何が身に付いたか(振り返り、実証)
- 6 研修を充実させるためには何が必要か(講師の選任、空間、時間等)

令和元年度夏季 久山町教職員全員研修会の流れ		
1. 目的		
○ 3年間の福岡県重点課題の指定を受け、教職員全員で「主体的な学び」の実現に向けての方向性の大体をつかむ。		
○ 久山町の教職員が「つどい」、意見を出し合う中で「つながり」、令和3年の一応のゴール像を「つくる」意識をもつ。		
2. 内容、留意点		
時間	内 容	留意点・資料等
9:10 ②	1. 県重点課題の概要について理解する。 (1) 県重点課題の内容やゴール像 (2) 久山町が受けている課題Ⅲの概要	
9:12 ⑤	2. 久山町の研究テーマを理解する。 (1) 町の特徴などから、研究テーマの理由を述べる ・久山町の特徴、強みから 地域、道徳 ・久山町の弱みから 自己肯定感の低さ、いじめ	○ 子どものアンケート資料③ ○ 「伸びよう」との冊子 ○ 横断歩道を渡った後お辞儀をする久山の子のエピソード。 ○ 全国学習状況調査質問紙結果 ○ 保護者のアンケートの結果からそれぞれ分析してもらう。
9:17 ⑥	(2) 保護者のアンケートをもとに、保護者の願いを 探る。 ・自分らしさを発揮して、他者と共によりよい人生を送ること。 ・思いやりや信頼・友情を大切にすること	資料1 資料2
9:23 ③	(3) 久山町の道徳宣言や、学校の教育目標から、 町や園、学校が目指そうとしている資質・能力の 共通点を見つける。	○ 「各園・学校の目指す子ども像」と「久山道徳宣言」から共通点を探してもらう。資料4

6つの枠組みを活用して立てた研修会の計画案

ある研修会や授業を構想していくにあたって、研修の構想も授業構想もカリキュラム・マネジメントの6つの枠組で捉えれば、左図のように、研修会の目的や内容、方法等を研修案として作成し、運営することが可能となります。

本町における令和元年度の全員研修会では、本研究における研究の最終ゴール像を共有することを目的に、研究内容の説明や質疑、協議を通して研究を深めていきました。

年によっては、特別支援教育、学力向上など、本町の実態、課題に応じてテーマ(目標)を定め、幼・小・中が一体となって研修に取り組んでいます。また、必要に応じて、保育園の保育士も研修に参加することもあります。

これまで、異校種をつなぐ活動について7つの取組を述べましたが、全て「自分を高め、人とよりよく関わり、伸びようと動く」子どもを共通の軸として取り組んでいます。道徳教育は、園が行う5つの領域、小中学校が行う生活科(小学校のみ)と総合的な学習の時間、特別活動のみではなく、全ての教育活動において行うことを意識して、町と学校が一体となって取り組んでいます。